

サン・ビレッジ浜田アイススケート場の活用のあり方に関する調査検討業務

報告書

令和5年11月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

1. 業務の背景と目的	P.3
2. 業務検討方針	P.6
3. 業務検討フロー	P.7
4. 外部環境の整理	P.8
5. 内部環境の整理	P.21
6. 環境分析まとめ～サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する主要論点	P.32
7. サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する市民意見(アンケート結果)	P.34
8. サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する事業者意見	P.43
9. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察	P.46
10. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察まとめ	P.57

1. 業務の背景と目的

●業務目的

サン・ビレッジ浜田アイススケート場の今後のあり方について、スポーツ施設、レジャー施設等、どのような施設形態が最適であるかを検討するため、本委託では、近年の利用・運営状況や、浜田市（以下、本市）の今後のスポーツ施策、わが国におけるスポーツニーズ変化などを踏まえ、サン・ビレッジ浜田アイススケート場のより効果的・合理的な活用方法について調査を行う。

本市では人口減少対策を重点課題の一つとして位置付けており、市政運営における最上位計画である「第2次浜田市総合振興計画 後期基本計画」においても「若者が暮らしたいまちづくり」を中心に様々な施策を推進することとしている。これらの点に十分留意しながら、若者や子育て世代をはじめとする、より多くの市民に利用される施設となるよう検討を行うものとする。

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方検討の経緯

時期	決定内容	関連する内容
平成28年3月	浜田市公共施設再配置方針 策定	「今後40年間で約7割の施設しか更新できない」認識共有
平成29年5月	浜田市スポーツ推進審議会 答申	浜田市のスポーツ施設の適正な配置及び整備についての答申
平成30年11月	浜田市公共施設再配置方針 一部改定	
令和2年3月	浜田市スポーツ施設再配置・整備計画 策定	サン・ビレッジ浜田アイススケート場について、答申評価「C」、「単独建替」、「市民対象施設としての多目的屋内広場へ用途変更」
令和3年1月	浜田市スポーツ施設再配置・整備計画 一部改正	サン・ビレッジ浜田アイススケート場について、「市民対象施設としての多目的屋内広場へ用途変更。ただし、利用者数が急激に増え、増えた利用者が継続的に見込まれる場合は、用途変更としている計画の見直しを検討する」
新型コロナウイルス感染症の拡大による利用者減少		
令和5年3月	浜田市スポーツ施設再配置・整備計画 一部改正	サン・ビレッジ浜田アイススケート場について、「施設の方針を判断するための適正な数値が得られない。よって整備方針については令和5年度において、判断材料を整えて方針を決定する」

1. 業務の背景と目的

●サン・ビレッジ浜田の立地・施設概要

- サン・ビレッジ浜田は、浜田市北東部に位置しており、周辺（車15分～20分圏内）には広域から観光客等が利用する主要な文化・スポーツ施設、海水浴場・大規模公園、商業施設等が点在している。
- 車でのアクセス性は高い（浜田東ICから車3分）一方で、浜田市のまちなかからの公共交通でのアクセス手段は限られている（最寄りバス停「国分寺」より徒歩約15分）。



1. 業務の背景と目的

●サン・ビレッジ浜田の立地・施設概要

■ 施設は主にアイススケート場とスポーツ広場（サッカーグラウンド、フットサルコート等）で構成されている。

所在地	島根県浜田市上府町イ2457		敷地面積	15,297㎡
開設年月	平成8（1996）年12月		構造	RC造（屋根のみS造）
施設構成	アイススケート場	スケートリンク：1,915㎡（47m×30m）、カーリング4面 その他：ミーティング室、シャワー室、更衣室		
	サッカーグラウンド	8,960㎡（105m×68m）（人工芝、照明設備有） ※JFA公認		
	フットサルコート	800㎡（人工芝）		
	その他	観戦エリア、休憩所、屋外トイレ、倉庫		
土地利用規制	都市計画／用途地域	非線引き／指定なし		
	容積率／建ぺい率	200％／70％		
敷地利用状況等	駐車台数	193台（身障者用2台）	ガス	プロパン
	上水道／下水道	整備済み／未整備（浄化槽・汲取り）	既存設備熱源	灯油ボイラー、タンク容量3,000ℓ

「サン・ビレッジ浜田区域図」



2. 業務検討方針

基本認識: 全国の地方都市が抱える構造的な課題への対応

■持続的な発展を志向する都市経営の必要性

- ・限られた都市経営資源を最大限生かす：ひと・もの・かね
- ・市民ニーズに応え、市民の便益・受益実感を高める施策
- ・費用対効果を高め、中長期での財政負担の適正化に資する投資
- ・ファシリティマネジメントの必要性、施設設備の老朽化への対応

<検討の前提>

■現在のサン・ビレッジ浜田アイススケート場の躯体はそのまま活用、必要になる最小限の設備更新・設備投資を実施

- ・アイススケート場の機能としては、設備は全面更新が必須
- ・アイススケートリンクは製氷機の故障により令和5年スケートシーズン休業中
- ・その他機能として活用する際にも、必要最小限の再整備は必要
- ・いずれにしても、現行施設の概ねの耐用年数も想定しておく

■スポーツ・アクティビティ(その他多様な活動)を中心に、若者や子育て世代など、より多くの市民の受益実感を高める機能のあり方を検討

- ・現行施設の主要機能であるスポーツ・アクティビティ（その他多様な活動）の機能を中心にさらなる活用を検討
- ・再整備に際して、サン・ビレッジ浜田の機能、ひいては本市における役割・機能をより良い形に更新していくことが重要

◎アイススケート場としての機能、その他の屋内運動施設としての機能、それぞれの中期的な機能のあり方について

総合的・客観的に整理

- ・浜田市の貴重な現有資産である「サン・ビレッジ浜田」の中期的な機能のあり方について、政策判断に資する検討材料をとりまとめる

3. 業務検討フロー

【基本認識:持続的な発展を志向する都市経営の必要性】

- 限られた都市経営資源を最大限生かす(ひと・もの・かね・こと)
- 市民ニーズに応え、市民の便益・受益実感を高める施策
- 費用対効果を高め、中長期での財政負担の適正化に資する投資
- ファシリティマネジメント、施設設備の老朽化への対応

【検討の前提】

- 現在のサン・ビレッジ浜田の躯体はそのまま活用、必要になる最小限の設備更新・設備投資を実施
- スポーツ・アクティビティ(その他多様な活動)を中心に、若者や子育て世代など、より多くの市民の受益実感を高める機能を検討

①外部環境の整理

- ✓ 浜田市の動向(人口／政策／財政／スポーツ等)
- ✓ アイススケート場運営を取り巻く環境の動向
- ✓ その他スポーツ等施設に関する環境の動向

②内部環境の整理

- ✓ アイススケート場の運営状況
(利用者、運営収支、事業・活動、関係者、社会効果等)

③環境分析まとめ～サン・ビレッジ浜田の機能のあり方に関する主要論点

- ▼アイススケート場のSWOT※1分析
- ▼施設経営戦略(課題)の整理
- ▼施設活用類型の整理

※1…SWOT：事業の現状について、内部環境（強み＜Strength＞・弱み＜Weakness＞）と外部環境（機会＜Opportunity＞・脅威＜Threat＞）の4つの要素から把握し、より実現性の高い戦略やマーケティングに生かすワークフレーム

④市民・若者の意向調査

- ✓ アイススケート場の利用状況、利用促進の課題等
- ✓ アイススケート場存続／その他機能転用に関する意向
- ✓ その他機能の方針等に関するニーズ、アイデア

⑤利用団体・企業(運営事業者)等意向調査

- ✓ アイススケート場／その他機能のメリット・デメリット
- ✓ アイススケート場／その他機能の運営参加への関心
- ✓ より効果的な運営に関するアイデア等

⑥サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察(調査まとめ)

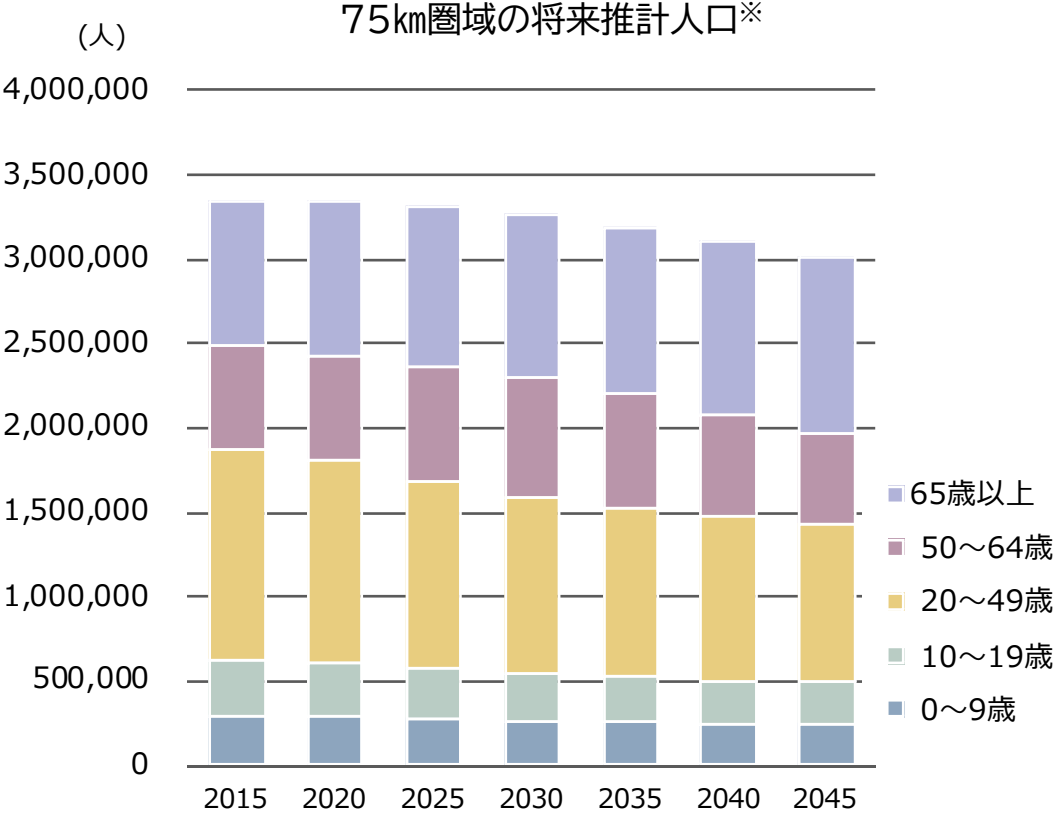
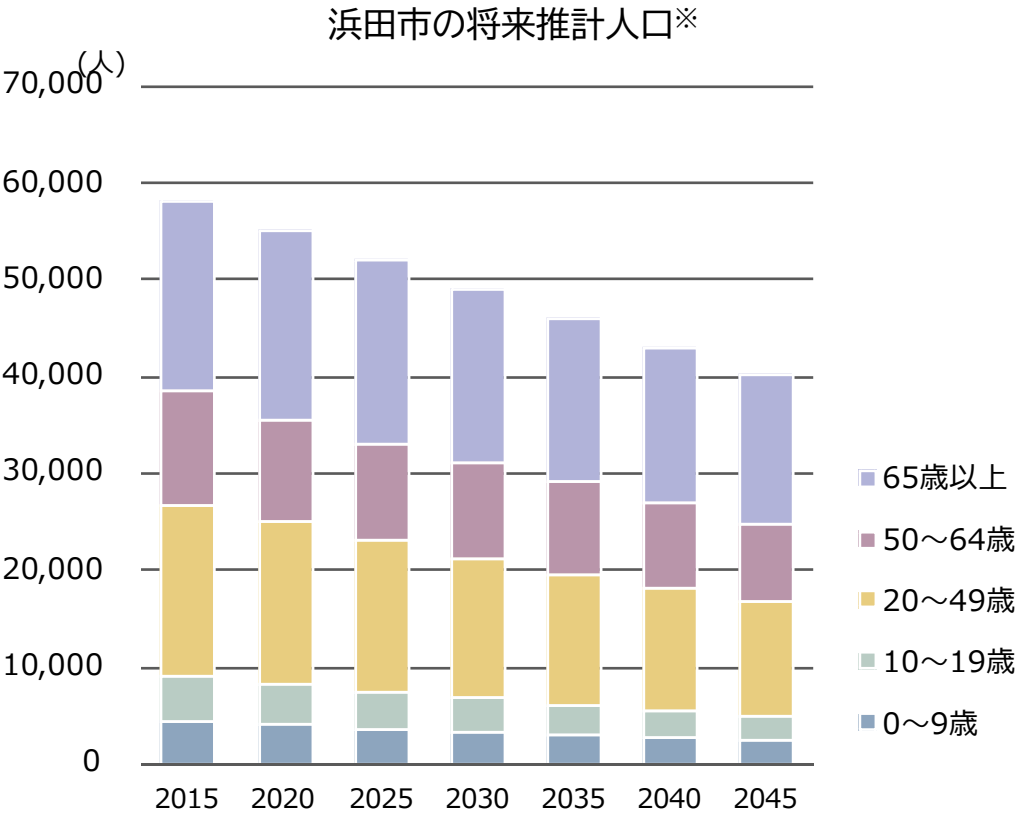
- 施設活用類型の絞り込み → ■ 主要活用パターンの運営モデルの想定、事業収支概算シミュレーション
- 主要活用パターンの重要指標に関する総合比較

- ①利活用シーンの広がりがあるか ②子ども・若者の利用増が見込めるか ③市民(大人)の利用増が見込めるか ④交流人口の増加に寄与しうるか
- ⑤施設競合・重複がないか ⑥整備費・維持管理費の多寡 ⑦運営事業者の関心・意欲があるか

4. 外部環境の整理

●浜田市の人口動向

- 浜田市の人口は約 5 万人（令和 5 年 9 月時点）で、**65歳以上の比率は約38%**となっている。
- **人口動向は減少傾向**にあり、同様の傾向が続くとなると、20年後には4万人前後まで減少する可能性がある。
- サン・ビレッジ浜田アイススケート場には、広島市を含む概ね75kmの圏域からの定例的な利用客がみられるが、浜田市を起点とする**75km圏域の将来推計人口も減少傾向**にあり、年々65歳以上の比率が高くなっていくことが予測されている。



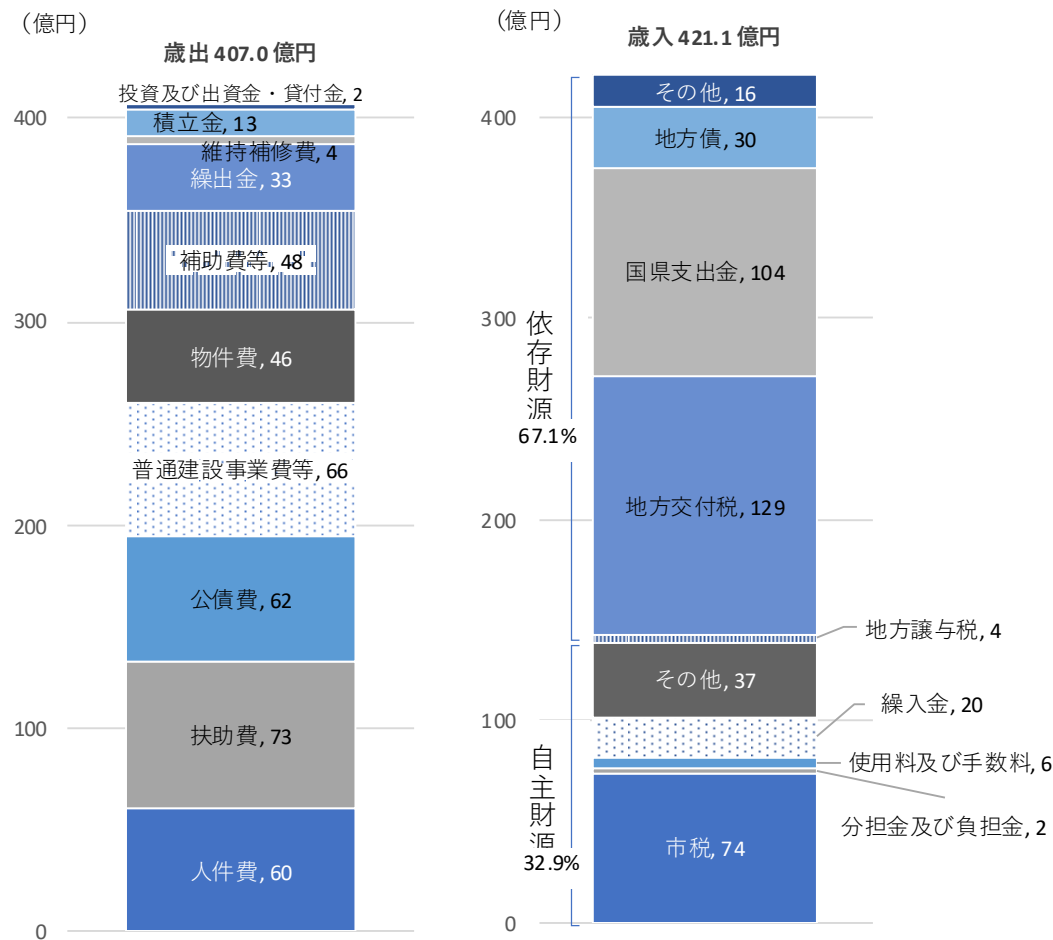
(出所) 社会問題・人口問題研究所「全都道府県・市区町村別の男女・年齢（5歳）階級別の推計結果(一覧表)」より作成
注 2025年以降は推計値

4. 外部環境の整理

●浜田市の財政動向

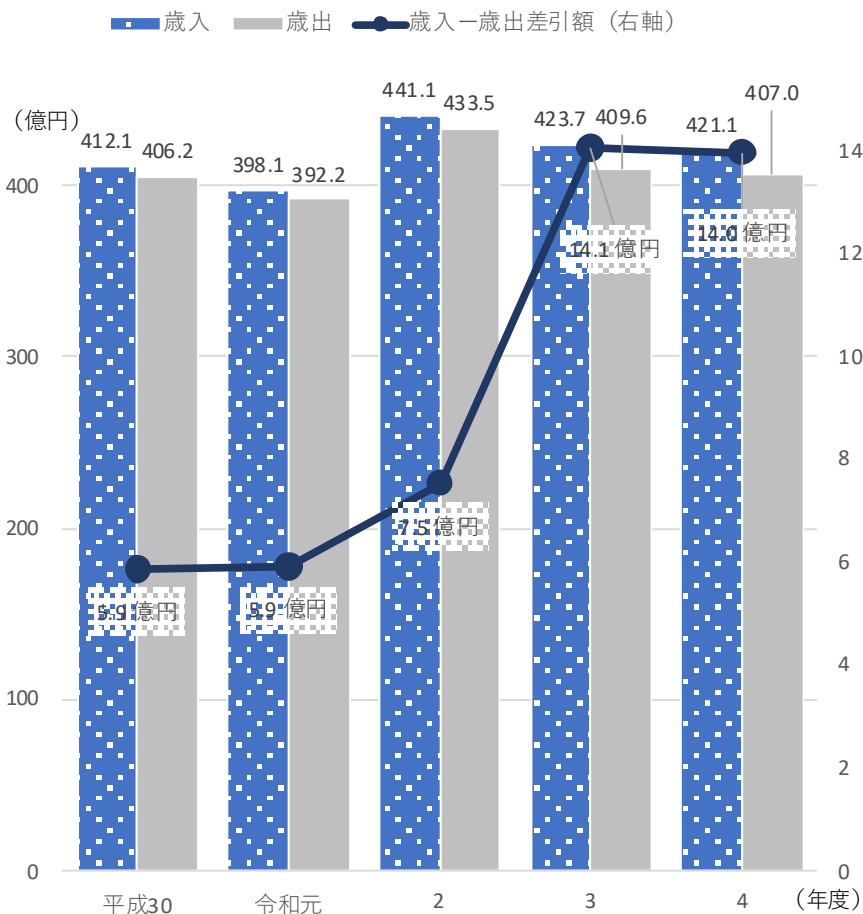
- 浜田市の令和4年度の歳入は421億502万円、歳出は407億497万円、歳入歳出差引額は14億5万円となっている。
- 歳出の内訳では扶助費が約73億円（17.8%）で最も多く、普通建設事業費約66億円(16.2%)、公債費約62億円(15.3%)と続く。
- 歳入は**自主財源が約3割にとどまり依存財源が7割を占める**。内訳では地方交付税が約129億円(30.6%)で最も多く、国県支出金が104億円(24.6%)、市税が74億円(17.5%)と続く。

《令和4年度：歳出・歳入内訳》



(出所) 浜田市「決算状況」より作成

《直近5年度の財政状況》



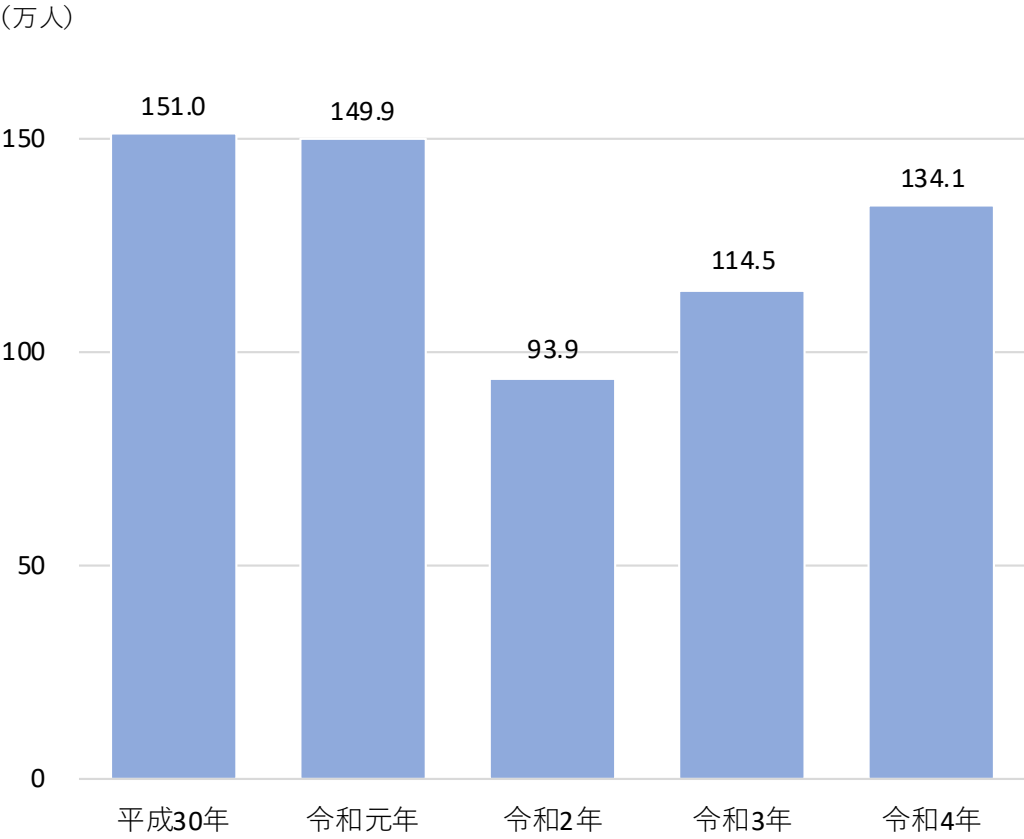
(出所) 浜田市「決算状況」より作成

4. 外部環境の整理

●浜田市の観光動向

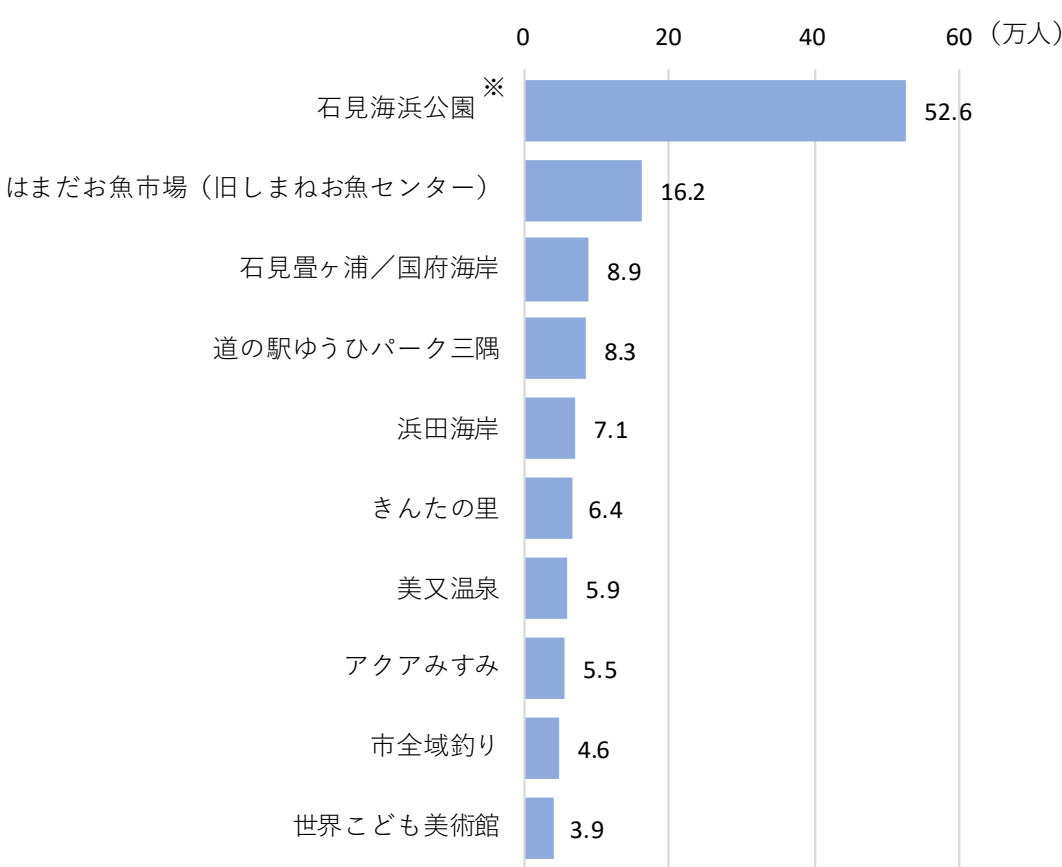
- 浜田市への観光入込客数は新型コロナウイルス感染症の拡大にともない令和 2 年に大きく減少したが、**令和 4 年は134万人**と平成 30 年（151万人）の約 9 割まで回復している。
- 令和 4 年の観光地点別観光入込客数では、石見海浜公園が52.6万人と最も多く、はまだお魚市場が16.2万人、石見畳ヶ浦／国府海岸が8.9万人と続く。

《直近5年の年間観光入込客数》



(出所) 統計はまだより作成

《令和4年の観光入込客数上位10件》



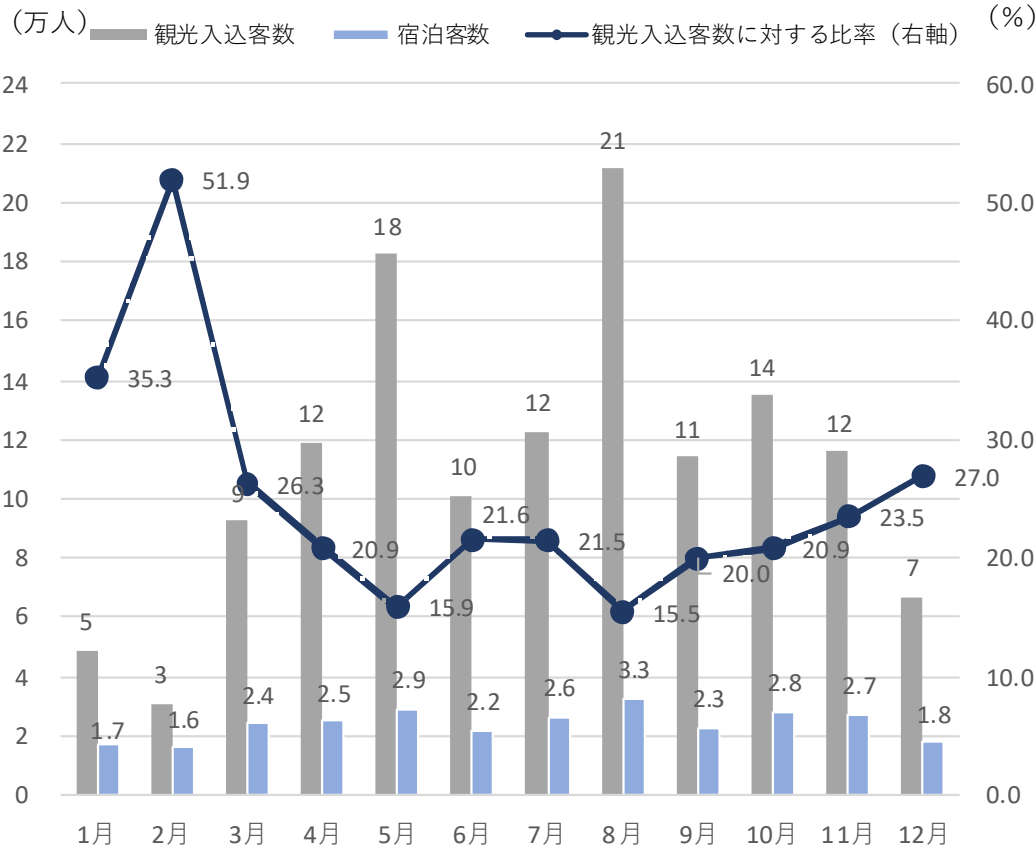
(出所) 統計はまだより作成
※ 石見海浜公園は、島根県立しまね海洋館アクアスの観光入込客数330,079人を含む

4. 外部環境の整理

●浜田市の観光動向

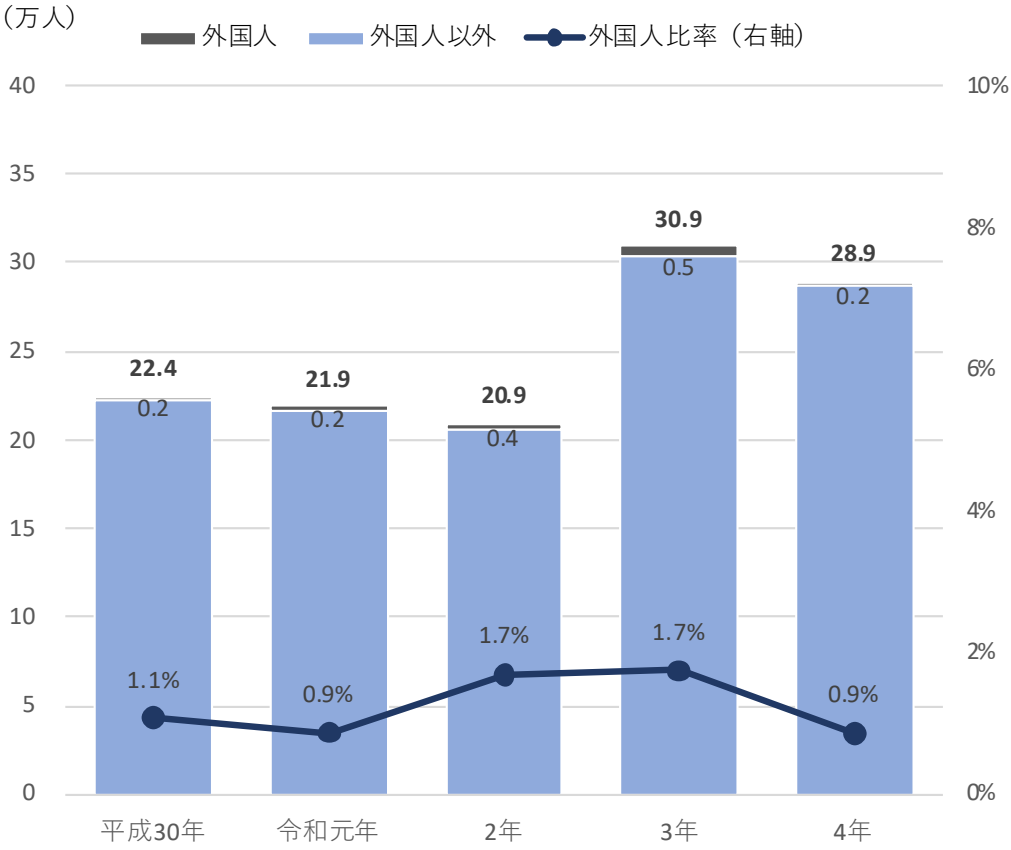
- 浜田市の令和4年の月別観光入込客数をみると、8月が約21万人で最も多く、5月が18万人、10月が14万人と続く。
- 観光入込客数に対する宿泊客数の比率を見ると、観光入込客数の少ない2月が51.9%と最も高く、観光入込客数の多い8月が15.5%で最も低い。冬季（特に1~2月）は宿泊を含めた観光需要は一定あるものの、日帰りでの観光需要は低下することが推察される。
- **令和4年の宿泊客数は28.9万人**、うち外国人は約2,500人で全体の0.9%にとどまる。

《令和4年の月別観光入込客数・宿泊客数》



(出所) 統計はまだより作成

《直近5年の宿泊客数》



(出所) 統計はまだより作成

4. 外部環境の整理

●浜田市の類似施設(屋内運動施設)の立地状況・充足状況

- 浜田駅周辺を中心に、大小多数の屋内運動施設（板張り・フローリング）が立地しているが、スポーツ以外の多目的な用途を含む個人・一般の日常利用を中心とした施設が多い。
- 大規模大会等にも対応可能なフロア面積（2,000㎡程度、バスケットボール2面分）を有する屋内運動施設も2ヶ所立地しており、それぞれ県・市全体の中心的な屋内運動施設として活用されている。
- ふれあいジム・かなぎのBアリーナについては、空調が整備されていないため、夏場の利用が制限される場合がある。
- **ほぼすべての屋内運動施設について稼働率（日数ベース）が100%に近く、新規の屋内運動施設に対する潜在的な需要があることが推察される。その一方で、浜田市の人口動向等を踏まえると、今後既存の需要は低減することも考えられるため、新規の屋内運動施設の整備にあたっては、新たな利用シーンを創出することが不可欠となる。**

《サン・ビレッジ浜田周辺の「屋内運動施設(公共施設)」立地状況》



4. 外部環境の整理

●浜田市の類似施設(屋内運動施設)の運営動向

- 屋内運動施設の運営概要・収支構造として、**利用者数は非常に多い一方で、利用料金単価が低い**ため、維持管理費が収入を大きく上回っている。また、「延床面積あたり利用料金収入」や「延床面積あたり維持管理費」が2施設で大きく異なることから、施設規模よりも、用途や諸室構成によって収支構造が規定されることが推察される。

▼サン・ビレッジ浜田周辺の屋内運動施設(公共施設)のうち、体育館(板張り)を中心とした収支構造が整理可能な2施設の概要を整理

島根県立体育館(令和4年度実績)

延床面積	8,822.37㎡
諸室構成	アリーナ(1,850㎡)、キッズルーム、多目的ルーム、フィットネスルーム、トレーニングルーム等
利用者数	66,529人

●収支構造

	費目	金額(円)
収入	利用料金収入	8,021,000
維持管理費	総額	40,660,686
	うち、人件費※	3,622,381
	うち、光熱水費	11,347,030

●主要指標

延床面積あたり利用料金収入	909	円/㎡
利用者数あたり利用料金収入	121	円/人
延床面積あたり維持管理費	4,609	円/㎡
利用者数あたり維持管理費	611	円/人

(出所) 令和4年度利用実績、収支実績より作成
※ 人件費は、施設管理に係るアルバイト人件費のみ計上

サンマリン浜田(令和4年度実績)

延床面積	1,359.4㎡
諸室構成	体育館(540㎡)、シャワールーム、ロッカールーム、研修室、和室、会議室等
利用者数	24,979人

●収支構造

	費目	金額(円)
収入	利用料金収入	4,596,820
維持管理費	総額	13,319,157
	うち、人件費	7,736,019
	うち、光熱水費	1,691,743

●主要指標

延床面積あたり利用料金収入	3,382	円/㎡
利用者数あたり利用料金収入	184	円/人
延床面積あたり維持管理費	9,798	円/㎡
利用者数あたり維持管理費	533	円/人

(出所) 令和4年度モニタリングレポートより作成

4. 外部環境の整理

(参考)国内のアイススケート人口の動向、アイススケート場の立地状況(対人口集積比)

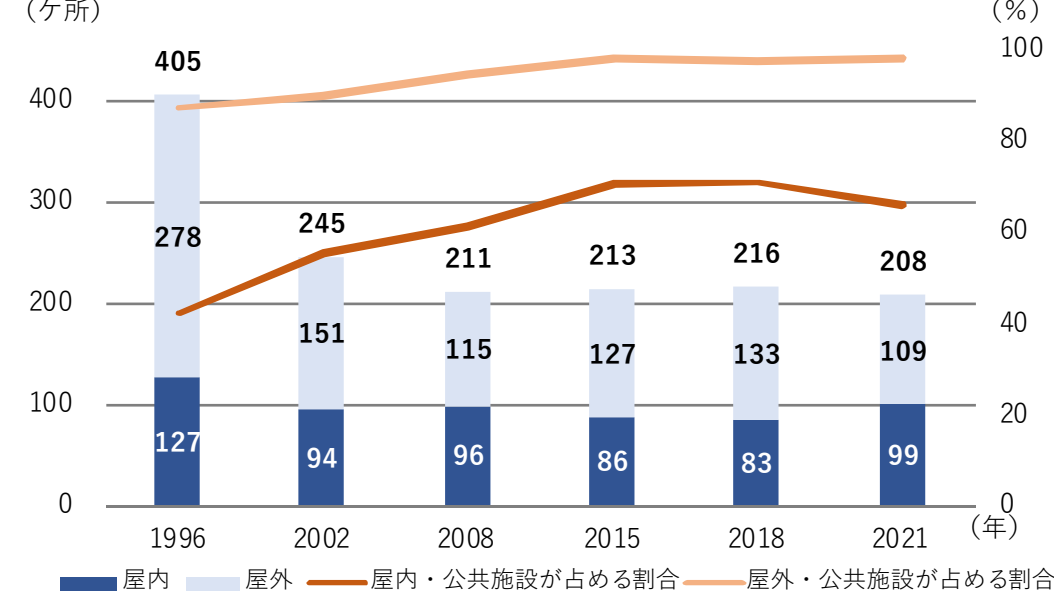
■ 国内のアイススケート場の設置数の推移

- スポーツ庁「体育・スポーツ施設現況調査」によれば、**国内のアイススケート場は過去約25年で半減**しており、特に1996年から2002年の間に急速に減少している。
 - 2002年以降については、屋内外共に、設置数は微減または横ばい傾向が続いている。
 - 国内のアイススケート場のうち、公共施設（学校体育・スポーツ施設及び公共スポーツ施設の合計）の占める割合は屋内より屋外の方が高く、特に2015年以降は、屋外アイススケート場の内公共施設が占める割合は95%を超える水準で推移している。

■ アイススケート場を利用する関連競技の人口の推移

- アイススケート場を利用する関連競技の人口（中央競技団体登録人口ベース）は約25,000人である。
 - うち、過半がアイスホッケーの登録人口（≠競技人口・実施人口）で、全体の約62%程度である。

「国内のアイススケート場※の設置数の推移」



(出所) スポーツ庁「体育・スポーツ施設現況調査」より作成
※ 「体育・スポーツ施設現況調査」における「アイススケート場」の定義・範囲

「屋内アイススケート場」：滑走面積が300㎡以上のもの。
「屋外アイススケート場」：滑走面積が1,500㎡以上のもの。季節運営・他施設種との機能転換によって運営されているものも計上されている可能性がある

「アイススケート場を利用する関連競技の人口(登録人口ベース)」

		2020年	2022年
(公財) 日本アイスホッケー連盟※	全体	16,047	16,219
	男	—	14,938
	女	—	1,281
(公社) 日本カーリング協会	全体	2,692	2,383
	男	1,802	1,574
	女	890	809
(公財) 日本スケート連盟	全体	7,122	7,234
	男	—	2,194
	女	—	5,040
合計		25,861	25,836

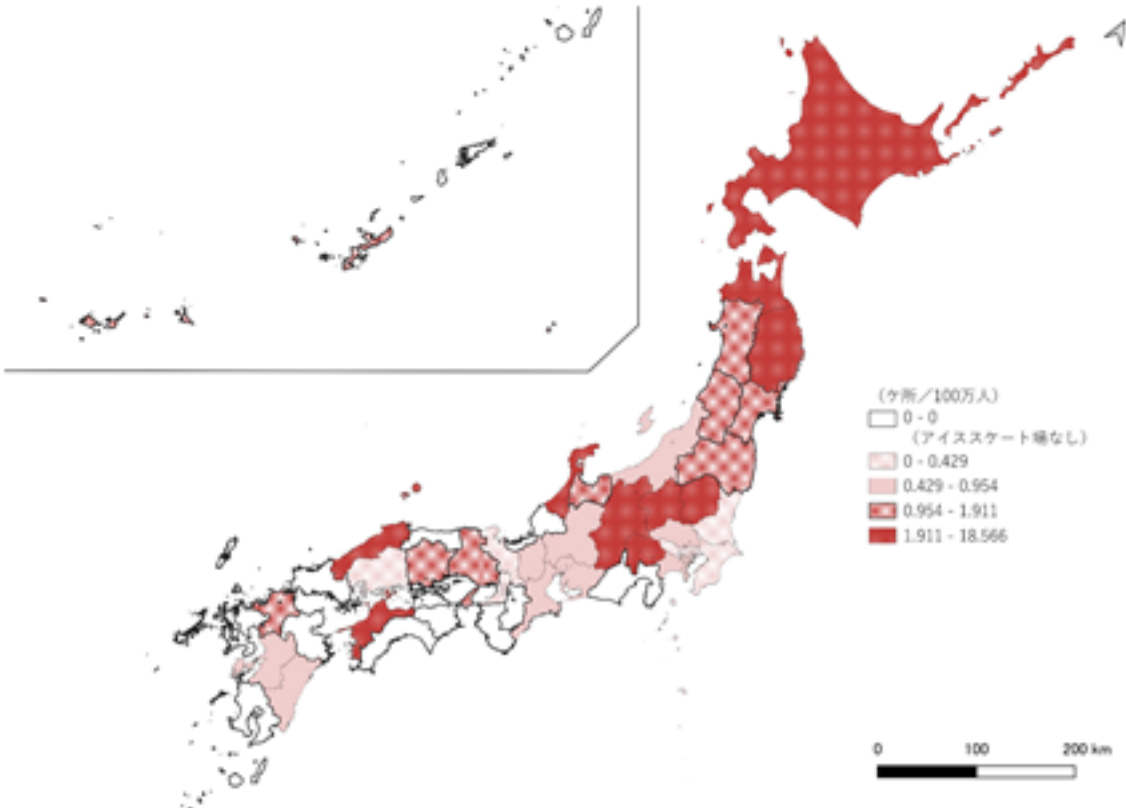
(出所) 笹川スポーツ財団「中央競技団体現況調査」より作成
※ 2020年調査では日本アイスホッケー連盟が未回答であったため、同連盟の公表資料を掲載している (rule_20220725_143939.pdf (jihf.or.jp))

4. 外部環境の整理

(参考)国内のアイススケート人口の動向、アイススケート場の立地状況(対人口集積比)

- 都道府県別にみた人口比のアイススケート場の立地状況
 - 2020年国勢調査における各都道府県の人口単位（100万人）あたりのアイススケート場数は北海道・東北・中部各地方の県においてより高い値を示しており、北海道では突出して高くなっている（18.6ヶ所／100万人）。
 - **島根県内のアイススケート場（計2ヶ所）の人口比の立地状況は、2.9ヶ所／100万人**となっており、全国水準と比較すると北海道を除き、非常に多い状況。
- 地域別にみた人口比のアイススケート場の立地状況
 - 各都道府県を9つの地域区分に分類したうえで、人口単位（100万人）あたりのアイススケート場数をみると、東北・中部各地方では1～2ヶ所／100万人を超えているが、中国地方をはじめ、その他の地域では0.6ヶ所～0.7ヶ所／100万人程度となっている。

《 都道府県別にみた人口比のアイススケート場の立地状況 》



《 地域別にみた人口比のアイススケート場の立地状況 》

地域	ヶ所／100万人
北海道	18.57
東北（青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島）	2.27
関東（茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨）	0.68
北陸（新潟・富山・石川・福井）	1.03
中部（長野・岐阜・静岡・愛知・三重）	1.50
近畿（滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山）	0.69
中国（広島・岡山・山口・鳥取・島根）	0.69
四国（徳島・香川・愛媛・高知）	0.69
九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）・沖縄	0.62

(出所) スポーツ庁「体育・スポーツ施設現況調査」(令和3年) 及び2020年国勢調査より作成

(出所) スポーツ庁「体育・スポーツ施設現況調査」(令和3年) 及び2020年国勢調査より作成
(地図は国土数値情報の行政区画データを引用：https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v3_1.html)

4. 外部環境の整理

(参考)中国地方のアイススケート場の立地動向

- 中国地方において現在、サン・ビレッジ浜田アイススケート場以外に5施設が立地。（島根県1施設、山口県1施設、広島県1施設、岡山県2施設）、**半数以上が民間の所有・運営する施設**となっている。
- 岡山県2施設は通年営業となっているが、サン・ビレッジ浜田アイススケート場を含むそれ以外の施設は、営業期間が限定されている。**大人の滑走料金は約1,000円～1,600円**となっている。
- サン・ビレッジ浜田アイススケート場を除くアイススケート場は、ほとんどが**まちなか（都市機能が集積しているエリア）に立地**。（市民・来訪者のアクセスが便利）

施設	施設概要	
サン・ビレッジ浜田 アイススケート場 (島根県浜田市上府町イ2457)	所有者 施設規模 営業期間 大人料金	浜田市(直営) 屋内47m×30m 11月中旬～4月中旬 1,150円
宍道湖公園 湖遊館 (島根県出雲市園町1660番地1)	所有者 施設規模 営業期間 大人料金	B&G財団 屋内60m×30m 10月上旬～5月上旬 1,150円
くだまつ健康パーク スポーツプラザ (山口県下松市大字平田448番地)	所有者 施設規模 営業期間 大人料金	ツルガハマランド株式会社 屋内60m×30m 11月下旬～4月上旬 990円
ひろしんビッグウェーブ 総合屋内プール (広島市東区牛田新町一丁目8番3号)	所有者 施設規模 営業期間 大人料金	広島市(指定管理) 屋内60m×30m、 18m×30m 11月～4月 1,580円
岡山国際スケートリンク (岡山市北区岡南町2-3-30)	所有者 施設規模 営業期間 大人料金	マルエス冷蔵株式会社 屋内60m×30m 通年 1,500円
ヘルスピア倉敷 (岡山県倉敷市連島町西之浦4141)	所有者 施設規模 営業期間 大人料金	学校法人加計学園 屋内60m×30m 通年 1,200円

(出所) 日本スケート連盟HPより作成

周辺の類似施設の立地状況(同心円は25kmごと)

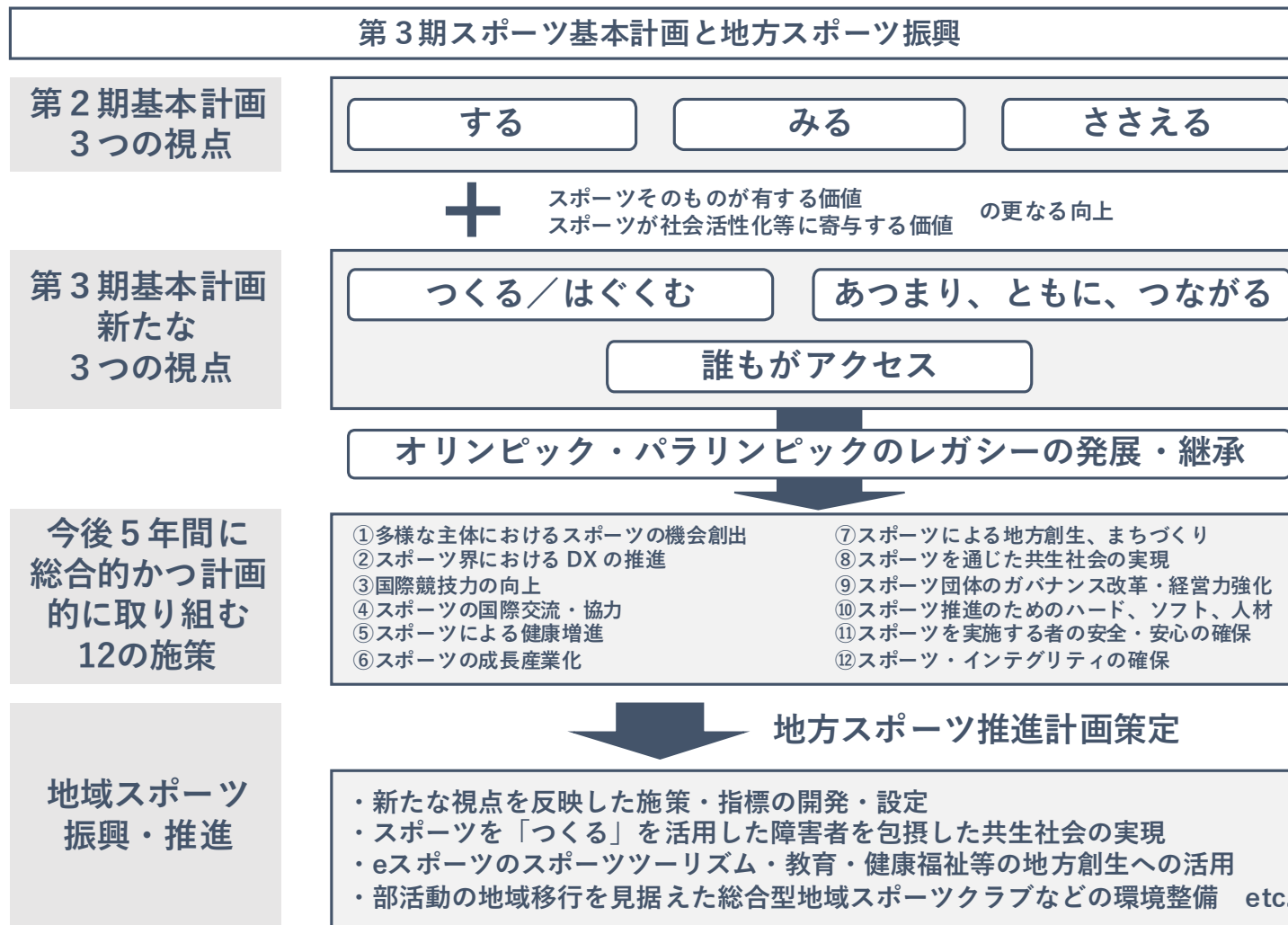


(出所) 国土地理院GSI Mapsにより作成

4. 外部環境の整理

●第3期スポーツ基本計画と地方スポーツ振興の潮流

- 国（スポーツ庁）において、第3期スポーツ基本計画（2022. 3）が策定され、新たなスポーツ振興のステージに入っている。
- 全国の自治体においても、近年、スポーツ推進計画やスポーツ施設再編の検討が進められており、**スポーツの価値の広がりをつえ、都市経営資源として積極的に広く活用する**動きが出てきている。



出所) スポーツ庁「第3期スポーツ基本計画(概要)」より、三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社作成
https://www.mext.go.jp/sports/content/000021299_20220316_1.pdf

4. 外部環境の整理

●スポーツの定義と近年の潮流

- スポーツとは「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵(かん)養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」であり、**時代に応じてスポーツ種目は広がり**を見せてきている。
- 近年では、「**アーバンスポーツ**」が**オリンピック新種目として採用されるなど、注目を集めている**。

▼スポーツ基本法におけるスポーツの定義、スポーツの価値

スポーツは、世界共通の人類の文化である。
スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵(かん)養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、今日、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものとなっている。スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適性等に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない。

▼アーバンスポーツ

「都市で開催されるエクストリームスポーツ※1」で、BMX、スケートボード、パルクール、インラインスケート、ブレイクダンス、ボルダリング、3on3(バスケットボール)などに代表される。アーバンスポーツのスポーツ種目に明確な定義はない。

※1…エクストリームスポーツ:過激で華麗な離れ業を競い合うスポーツ。「自己表現」が重要な要素であり、「する人と見る人」の近接性にも特徴がある。音楽やファッションなどもあいまって、若者文化として普及してきている。

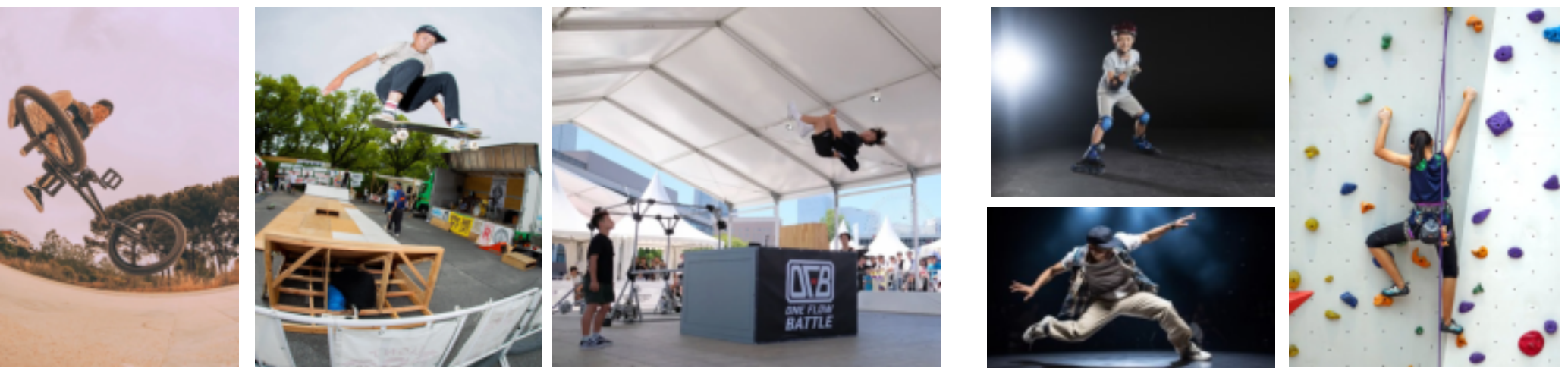


写真)HIROSHIMA URBAN SPORTS FESTIVAL 2023 HP

4. 外部環境の整理

●SDGs推進の社会要請

- 国連において「**スポーツは持続可能な開発における重要な鍵となるものである**」とし、日本においてもSDGsの達成にスポーツで貢献しようと、社会におけるスポーツの価値のさらなる向上に取り組むことを表明している。



持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。(外務省HPより)

●環境負荷軽減の社会要請

- 2020年10月、政府は2050年までに**温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言**。
「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」※¹ から、植林、森林管理などによる「吸収量」※を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味している。
- 温室効果ガスの排出量抑制のためには、**エネルギー効率の高い設備等の導入**が求められる。
- また、オゾン層保護のため、オゾン層を破壊する「特定フロン」からオゾン層を破壊しない「**代替フロン**」への**転換**が進められている。今後は、高い温室効果を持つ「代替フロン」から、**温室効果の小さい「グリーン冷媒**」への**転換**が重要になる。

※ ここでの温室効果ガスの「排出量」「吸収量」とは、いずれも人為的なもの

4. 外部環境の整理

●第2次浜田市総合振興計画 後期基本計画(令和4年度～令和7年度)

- サン・ビレッジ浜田（アイススケート場、屋外運動施設）は、浜田市の貴重な都市経営資源であり、スポーツの振興はもとより、スポーツが有する多様な価値を通じた、**浜田市における多面的な政策連動・政策効果を発揮することが期待される。**

＜サン・ビレッジ浜田(アイススケート場、屋外運動施設)に関連しうる主要施策＞

生涯スポーツの振興

：スポーツを通じた心身の健康増進

- スポーツ・レクリエーション活動の推進
- スポーツ精神の高揚と競技力の向上
- スポーツ・レクリエーション環境の整備

観光・交流の推進

：地域資源を活かした観光施策の推進

- 滞在型観光の推進と受入体制の確保
- イベント等の開催や合宿等の誘致

健康づくりの推進

：生きがいや幸せが実感できる健康寿命の延伸

- 市民自ら取り組む健康づくり運動の推進
- こころの健康づくりの推進

人がつながる定住環境づくりの推進

：人の流れを大切にし、愛着を持ち続けるまち

- 関係人口との協働による課題解決の推進

●第84回国民スポーツ大会・第29回全国障害者スポーツ大会(島根かみあり国スポ・全スポ)開催の機会

- 令和12（2030）年に「島根かみあり国スポ・全スポ」が開催される予定で、浜田市は、「サッカー」「体操」「ゴルフ」「バレーボール（ビーチ）」「トランポリン」「軟式野球」の会場として計画されている。
- **市内での競技実施に向けて各スポーツ施設整備を進めるとともに、浜田市スポーツ施設再配置・整備計画及び長寿命化計画に基づき、老朽化した施設の安全対策と計画的な改修を進めることが求められる。**
- また、「**島根かみあり国スポ・全スポ**」のレガシーを浜田市の都市経営に生かしていくことが期待される。

サン・ビレッジ浜田スポーツ広場：サッカー(成年女子、少年男子、少年女子) 開催予定施設

5. 内部環境の整理

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場の施設概況

■ 施設概要(法定耐用年数:38年 竣工後27年経過)

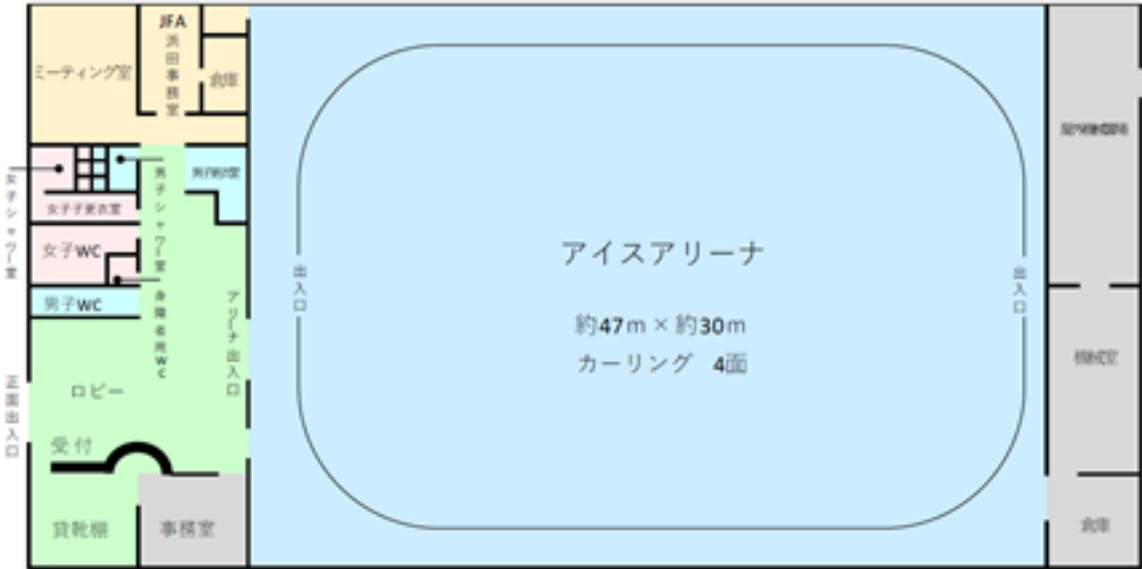
延床面積	2,526.63 m ²
建築面積	2,751.83 m ²
建築年	平成8年3月
主構造	鉄筋コンクリート造(屋根のみ鉄骨造)

■ 諸室構成

スケートリンク	1,915m ² (47m×30m) カーリング(4面)
ミーティング室	43m ²
シャワー室	男性:約9m ² 女性:約10m ²
更衣室	男性:約20m ² 女性:約19m ²

■ 設備概要(製氷設備の法定耐用年数:13年 竣工後27年経過)

ブラインクーラーユニット・ ブライントank・ブラインポンプ	ディーゼルエンジン駆動空冷式
温水兼散水タンク・ 散水ポンプ・温水循環ポンプ	
動力制御盤	
オイルメインタンク・ オイルサービスタnk・オイルポン プ	横型円筒式埋設型 3000ℓ 灯油
ボイラー	温水ボイラー 0.2kW
整氷車	オリンピック2000型 LPG仕様



5. 内部環境の整理

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場の稼働状況・利用者数の動向

- サン・ビレッジ浜田アイススケート場の令和4年度の営業日数は129日、うち稼働日数は112日で稼働率は86.8%であった。
【営業日数】…営業期間内の休館日を除く日数を集計
【稼働日数】…営業日のうち、用途・人数によらずアイススケート場の利用のあった日を集計
【稼働率】…稼働日数÷営業日数で算出
- サン・ビレッジ浜田アイススケート場の利用者数は、コロナ発生後の令和2年度より横ばいで推移しており、令和4年度の利用者数は4,993人であった。
- 利用者数を月別にみると、1月が1,468人で最も多く、2月が1,235人、12月が801人と続く。

《直近4シーズンの営業期間》

シーズン	営業期間
令和元年シーズン	令和元年11月23日～令和2年4月12日
令和2年シーズン	令和2年11月21日～令和3年4月18日
令和3年シーズン※	令和3年11月20日～令和4年4月17日
令和4年シーズン	令和4年11月19日～令和5年4月16日

※ 令和3年度は、新型コロナにより、令和4年1月22日から2月20日まで休業

《直近4年度の営業日数・稼働日数》

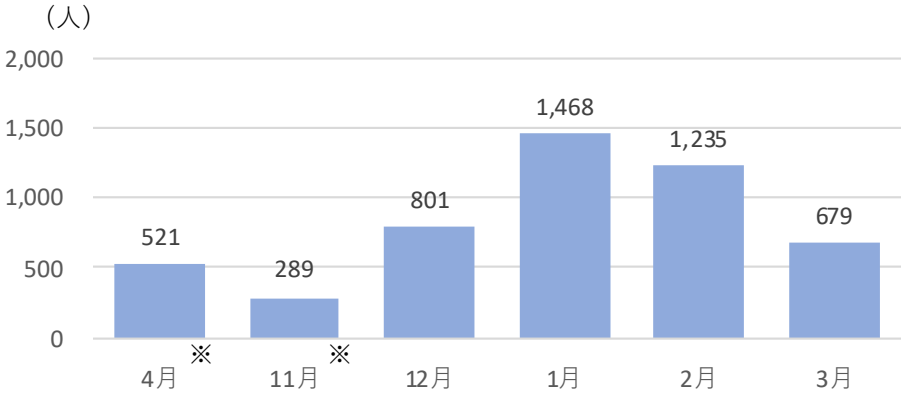
	営業日数	稼働日数	稼働率
令和元年度	143日	138日	96.5%
令和2年度	122日	125日	102.5%※2
令和3年度※1	103日	95日	92.2%
令和4年度	129日	112日	86.8%

(出所) 年間利用実績表をもとに集計

※1 令和3年度は、新型コロナにより、令和4年1月22日から2月20日まで休業

※2 一部休館日の利用がみられるため、稼働率が100%を超えている

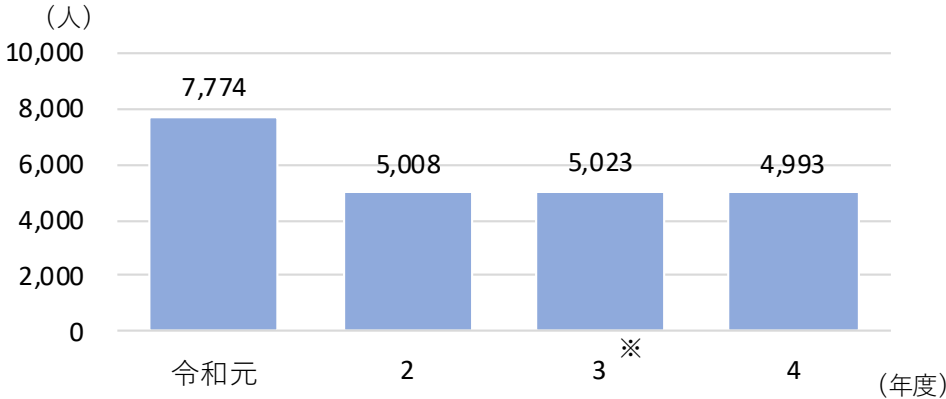
《令和4年度・月別利用者数》



(出所) 年間利用実績表をもとに集計

※ 4月は17日まで、11月は19日から営業

《直近4年度の利用者数推移》



(出所) 年間利用実績表をもとに集計

※ 令和3年度は、新型コロナにより、令和4年1月22日から2月20日まで休業

5. 内部環境の整理

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場の稼働状況・利用者数の動向

- **カーリングについて、西日本の中心的な競技拠点の1つとして大会が開催**されている。
- その他、**フィギュアスケートのイベント・教室が定期的に開催**されている。

■主なイベント・大会等(※参加人数は概算)

《令和元年度》

年月日	イベント内容	参加人数
H31.4.6	西日本ミックスカーリング代表選考会	46人
R1.11.30 ～12.1	西日本オープンカーリング大会	延べ 107人
R1.12.19～23	西日本カーリング選手権大会	延べ 130人
	西日本ミックスダブルスカーリング選手権大会	
	西日本シニアカーリング選手権大会	
R1.12.29	フェスタオンアイス (フィギュア&カーリングイベント)	50人
R2.2.1～2	倉敷カーリングクラブ合宿	30人
	フィギュアスケート教室 (7 回開催)	延べ 97人

《令和2年度》

年月日	イベント内容	参加人数
R2.11.23	広島県カーリング協会強化合宿	20人
R2.12.19	クリスマス会 (フィギュアイベント)	50人
R2.12.26	フェスタオンアイス (フィギュア&カーリングイベント)	50人
R3.2.13	フェスタオンアイス (フィギュア大人イベント)	20人
R3.3.14	フィギュアスケート教室発表大会	30人
	フィギュアスケート教室 (13 回開催)	延べ 146人

(出所) 浜田市資料より作成

《令和3年度》

年月日	イベント内容	参加人数
R3.12.4～5	西日本オープンカーリング大会	75人／日
R3.12.12	広島県カーリング協会強化合宿	18人
R3.12.25	フェスタオンアイス	50人
R4.2.28	しまねっこカーリング宣伝	4人
R4.3.5	フィギュアスケート教室発表大会	20人
R4.3.19	西日本ミックスカーリング選手権大会	40人
R4.3.20～21	西日本カーリング選手権大会	80人／日
	フィギュアスケート教室 (9 回開催)	延べ 78人

《令和4年度》

年月日	イベント内容	参加人数
R4.11.26～27	オープンカーリング大会	60人
R4.12.4	広島県カーリング協会強化合宿	17人
R4.12.9～11	西日本カーリング選手権大会	75人
R4.12.24	スケートクリスマス・カーリング大会	38人
R5.1.14～15	西日本ミックスダブルス選手権大会	37人
R5.2.11	フィギュアスケート教室発表大会	18人
R5.3.11～12	西日本ミックスカーリング選手権大会	50人
	フィギュアスケート教室 (6 回開催)	延べ 90人

5. 内部環境の整理

●サン・ビレッジ浜田スポーツ広場等の稼働状況・利用者数の動向

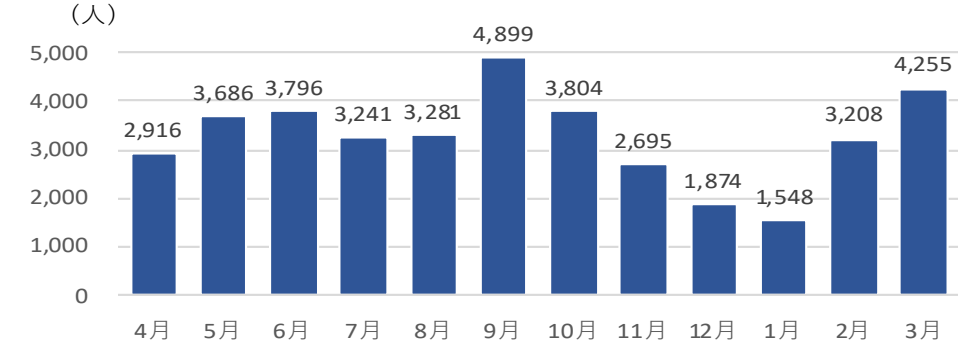
- サン・ビレッジ浜田スポーツ広場等の令和4年度の営業日数は297日。営業日以外も利用するベルガロッソいわみ含む全件の稼働日数は339日、稼働率114.1%（営業日297日換算、営業日365日換算では稼働率92.9%）であった。
【営業日数】…休業日を除くスポーツ広場の営業日を集計
【稼働日数】…営業日のうち、用途・人数によらずスポーツ広場等（ミーティング室・シャワールーム含む）の利用のあった日を集計
【稼働率】…稼働日数÷営業日数で算出
- コロナ期間を挟んで増加傾向が見られ、令和4年度は39,203人の利用者数であり、月別にみると9月が4,899人で最も多く、3月が4,255人、10月が3,804人と続く。

「直近4年度の営業日数・稼働日数」

	営業日数	ベルガロッソいわみ含む全件	
		稼働日数	稼働率
令和元年度	299	296	99.0%
令和2年度	271	274	101.1%※1
令和3年度	339	334	98.5%
令和4年度	297	339	114.1%※2

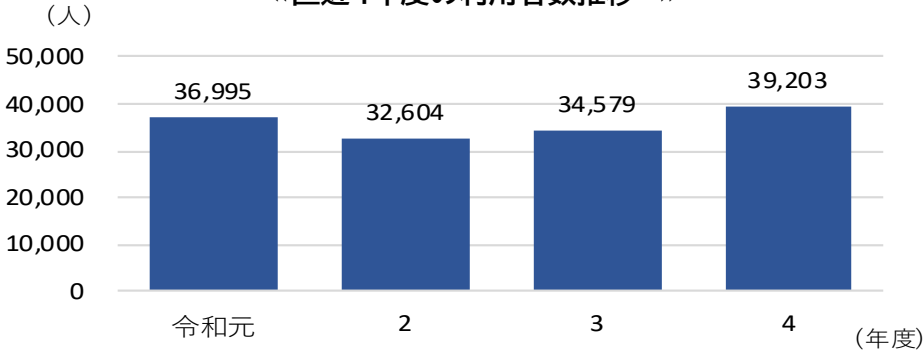
（出所）浜田市提供資料、年間利用実績表をもとに集計
※1 一部休館日の利用がみられるため、稼働率が100%を超えている
※2 ベルガロッソいわみが、浜田市との連携協定に基づき営業日以外も使用しているため、稼働率が100%を超える

「令和4年度・月別利用者数※」



（出所）年間利用実績表をもとに集計
※ スポーツ広場利用者とミーティング室・シャワールーム利用者が重複する可能性がある

「直近4年度の利用者数推移※」



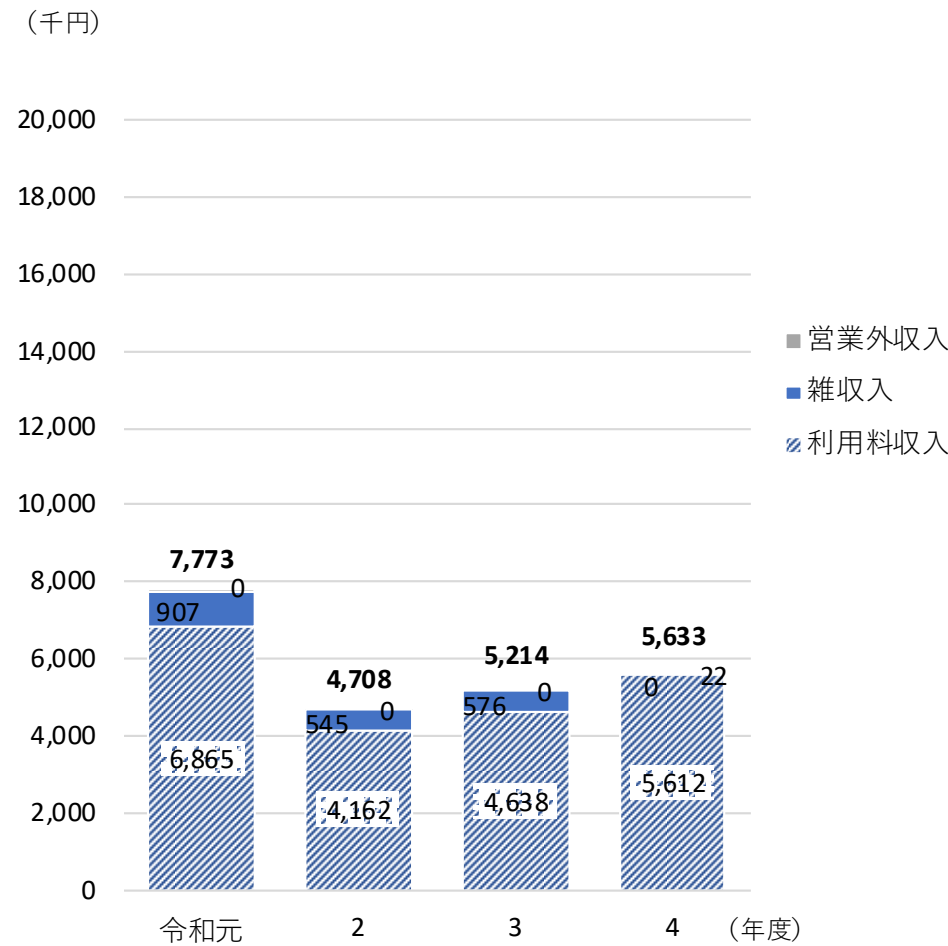
（出所）年間利用実績表をもとに集計
※ スポーツ広場利用者とミーティング室・シャワールーム利用者が重複する可能性がある

5. 内部環境の整理

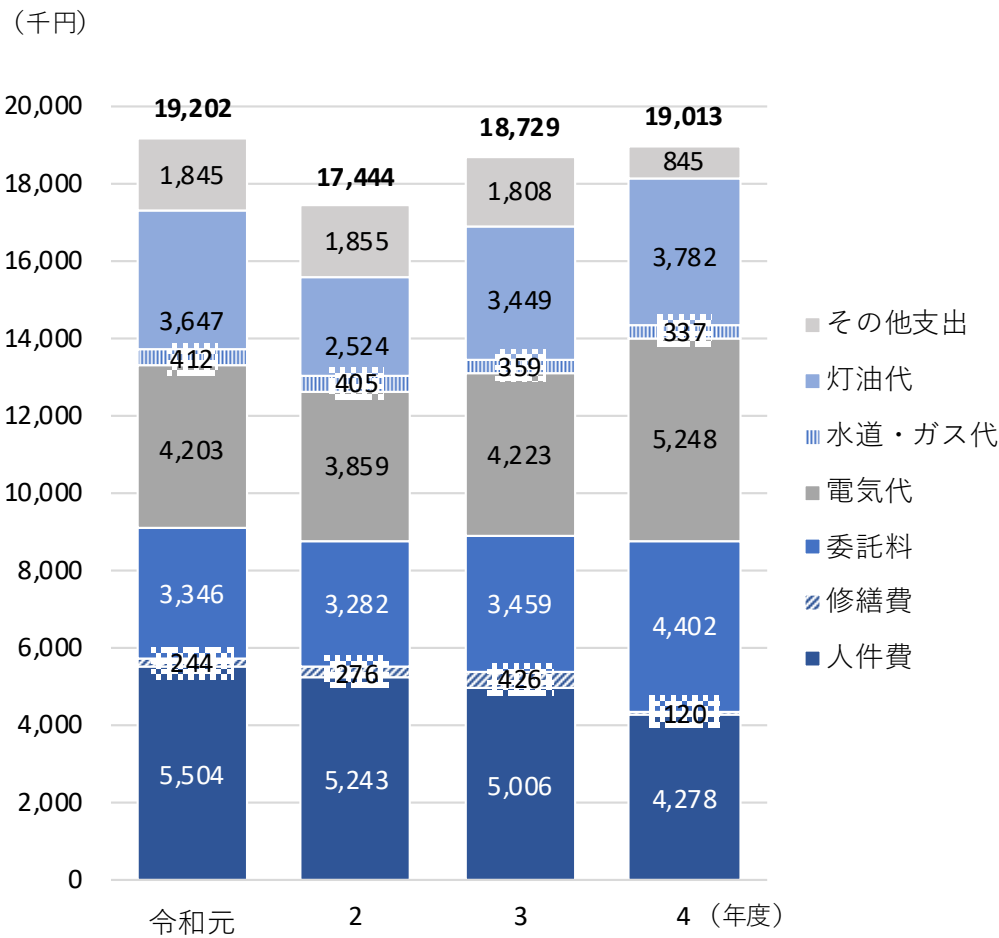
●サン・ビレッジ浜田アイススケート場の施設運営動向

- サン・ビレッジ浜田アイススケート場の令和4年度の収入は約560万円である。
- 令和4年の支出は約1,900万円、内訳は電気代約520万円、委託料約440万円、人件費約430万円、灯油代約380万円と続く。

《直近4年度の収入内訳》



《直近4年度の支出内訳》

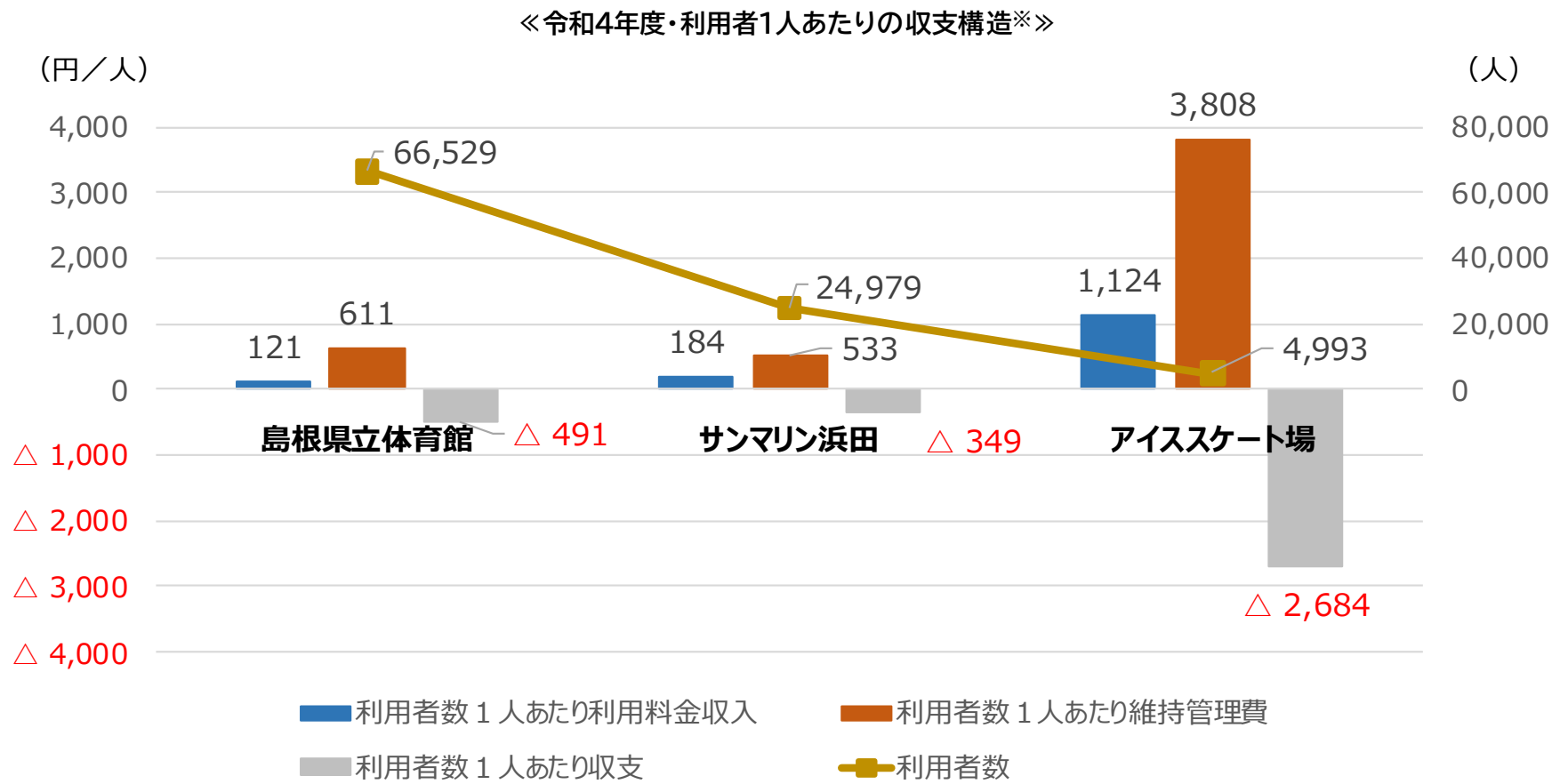


(出所) 浜田市資料より作成
※ 令和元年度～令和3年度については、指定管理料を除く

5. 内部環境の整理

●サン・ビレッジ浜田の施設運営動向：市内類似施設（屋内運動施設）との収支構造比較

- サン・ビレッジ浜田アイススケート場では、令和4年度の利用者1人あたりの利用料金収入が1,124円、維持管理費が3,808円、収支（利用料金収入－維持管理費）が△2,684円と、それぞれ屋内運動施設（島根県立体育館、サンマリン浜田）よりも大きい。**サン・ビレッジ浜田アイススケート場は、利用料金収入単価は高いが維持管理コストも大きく、他屋内施設に比べて大幅な赤字が発生する構造となっている。**



（出所）島根県立体育館…令和4年度利用実績、収支実績より作成／サンマリン浜田…令和4年度モニタリングレポートより作成／アイススケート場…浜田市資料より作成
※ 端数調整により合計値や計算結果が合わない場合がある

5. 内部環境の整理

●サン・ビレッジ浜田の集客交流施設としての効果：令和4年度アイススケート場利用者アンケート結果より

■利用者アンケートの概要

- 調査目的：サン・ビレッジ浜田アイススケート場の利用状況及び利用者の意向を把握するため
- 調査期間：令和4年11月19日から令和5年4月16日まで
- 回答者数：950人
- 調査方法：利用受付時に記入を依頼
- 集計方法：浜田市提供データをもとに、非該当データの除外、複数回答の分解等、一部データ補正のうえ集計
- その他：回答回数は、調査期間中1名につき1回のみとする

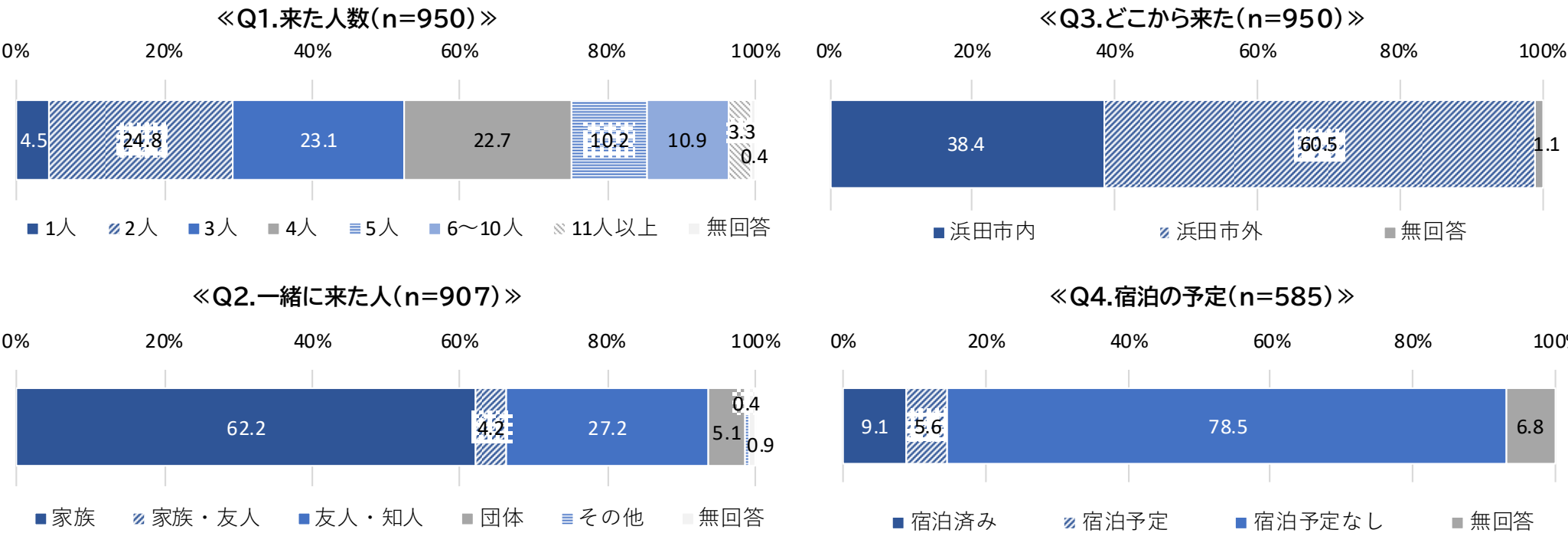
■利用者アンケート結果の総括

- 市外からの利用者が多く、若年層や子育て世代をはじめとする市民のための施設として有効に機能していない
 - どこから来たかの質問については「浜田市外」が**60.5%**である
 - 年代別のどこから来たかの質問については、年齢が若い方が比較的「浜田市内」の回答が多いものの、**10代の51.0%、20代の67.6%、30代の60.2%が「浜田市外」と回答**している
- アイススケート場の利用が宿泊や観光施設の利用に十分つながっておらず、集客交流施設としての効果は限定的である
 - 宿泊の予定の質問については「**宿泊予定なし**」が**78.5%**である
 - アイススケート場以外に浜田市内で行くところがあるかの質問については「**ない**」が**73.6%であり**、市外利用者に限っても「**ない**」が**70.1%**である

5. 内部環境の整理

●サン・ビレッジ浜田の集客交流施設としての効果：令和4年度アイススケート場利用者アンケート結果より

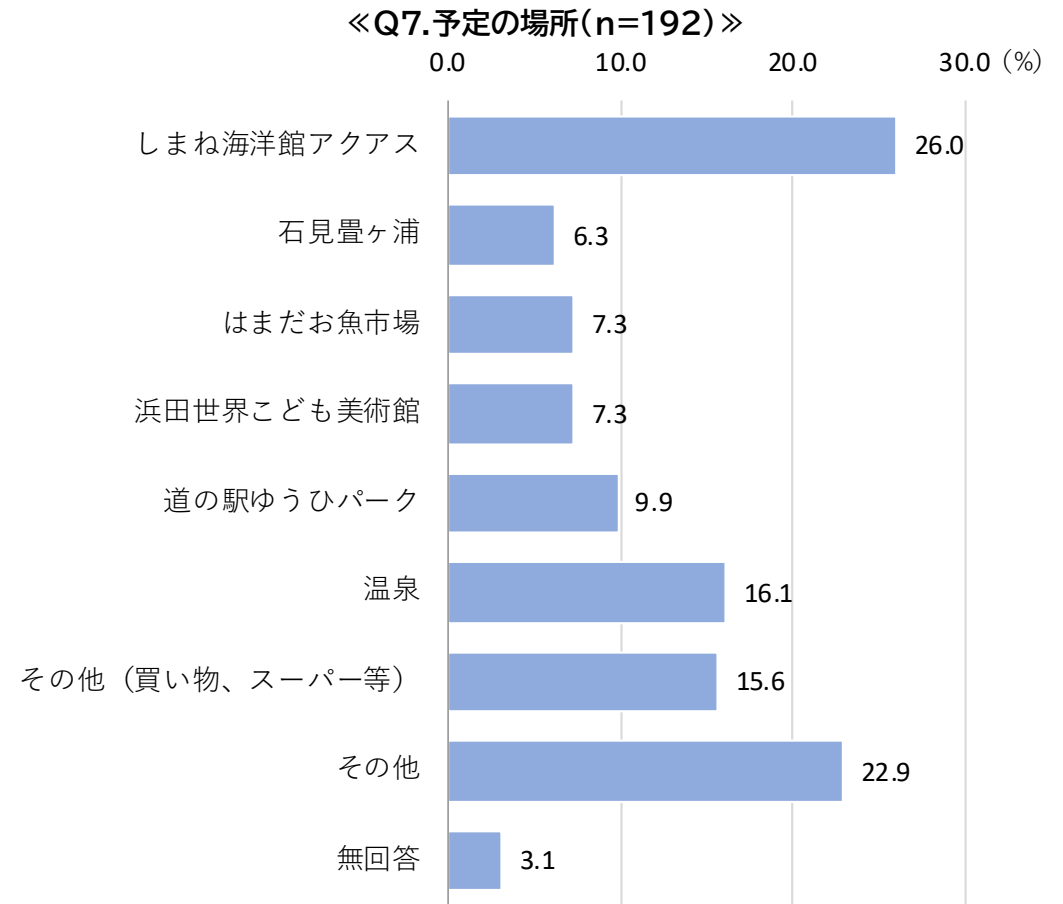
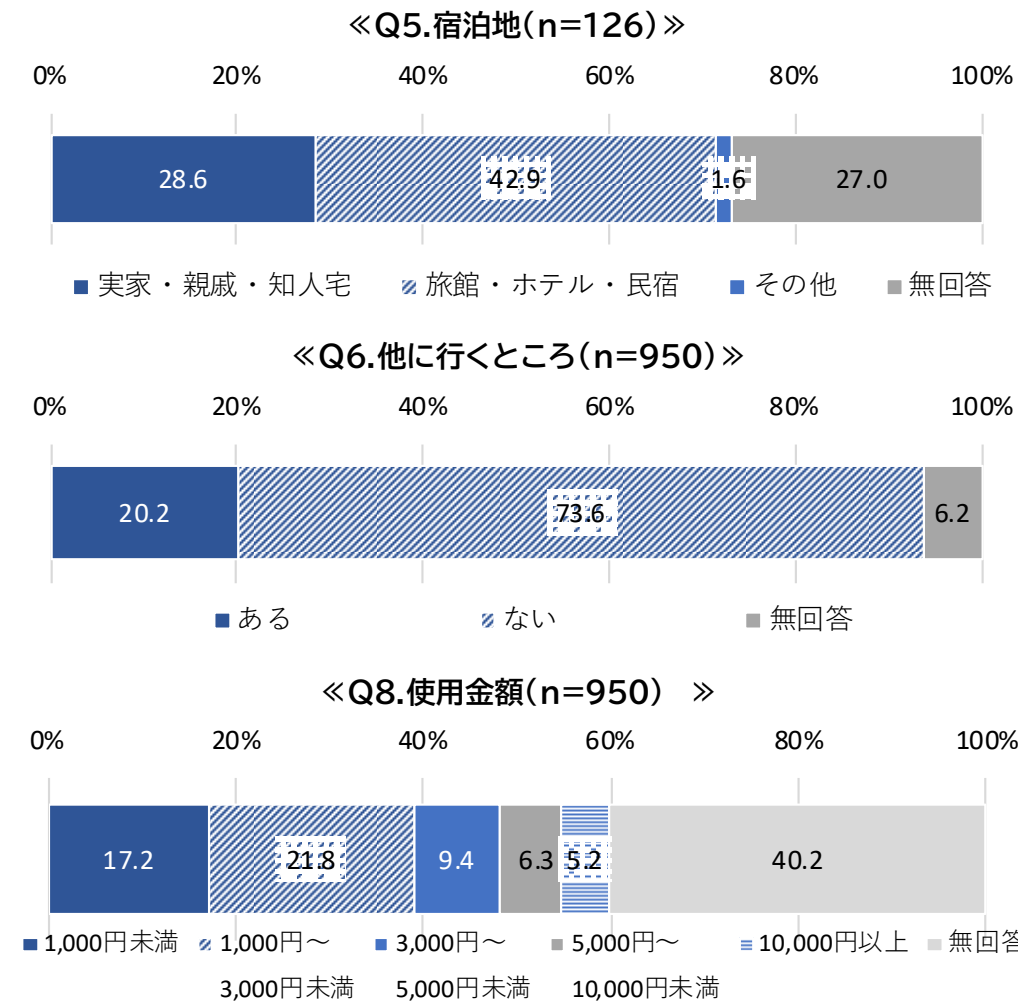
- 何人で来たかの質問については、「2人」が24.8%、「3人」が23.1%、「4人」が22.7%であった。
- 誰と一緒に来たかの質問については、「家族」が62.2%、「友人・知人」が27.2%であった。
- 「どこから来たか」の質問については、「浜田市外」が60.5%、「浜田市内」が38.4%であった。
- 「宿泊の予定」の質問については、「宿泊予定なし」が78.5%、「宿泊済み」9.1%、「宿泊予定」5.6%であった。



5. 内部環境の整理

●サン・ビレッジ浜田の集客交流施設としての効果：令和4年度アイススケート場利用者アンケート結果より

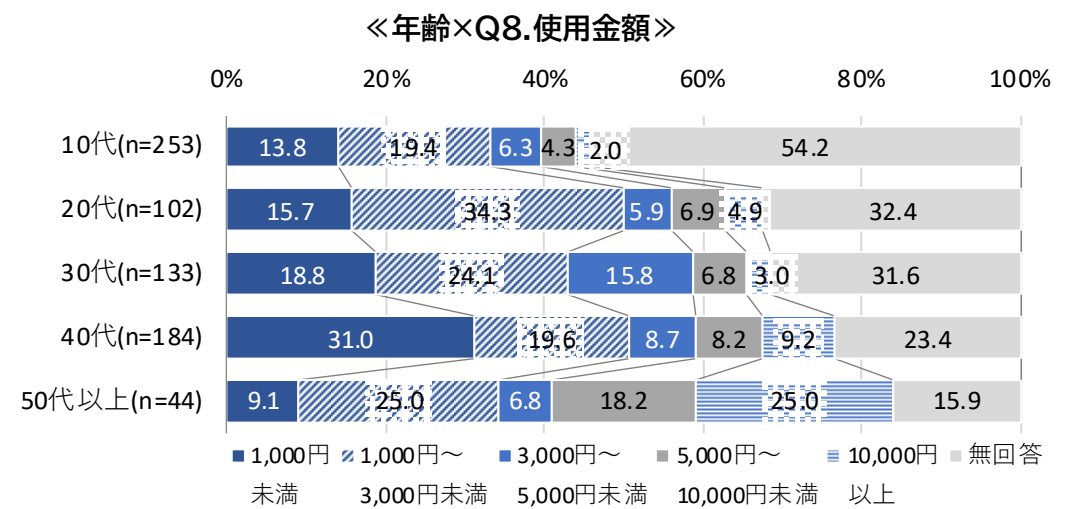
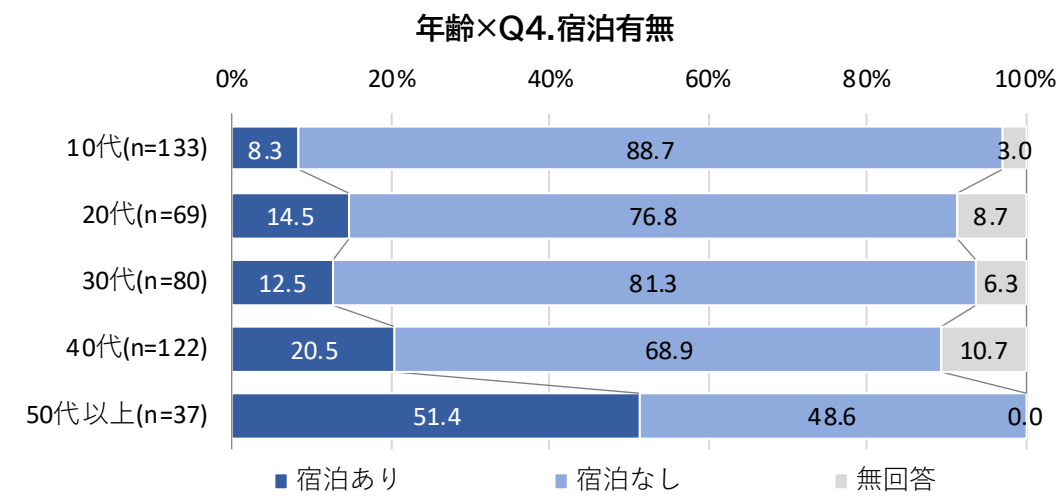
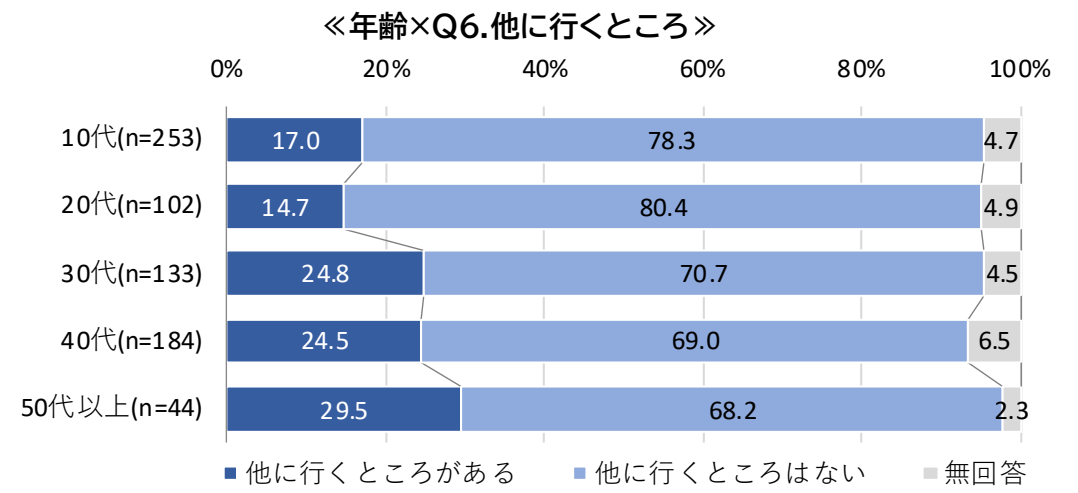
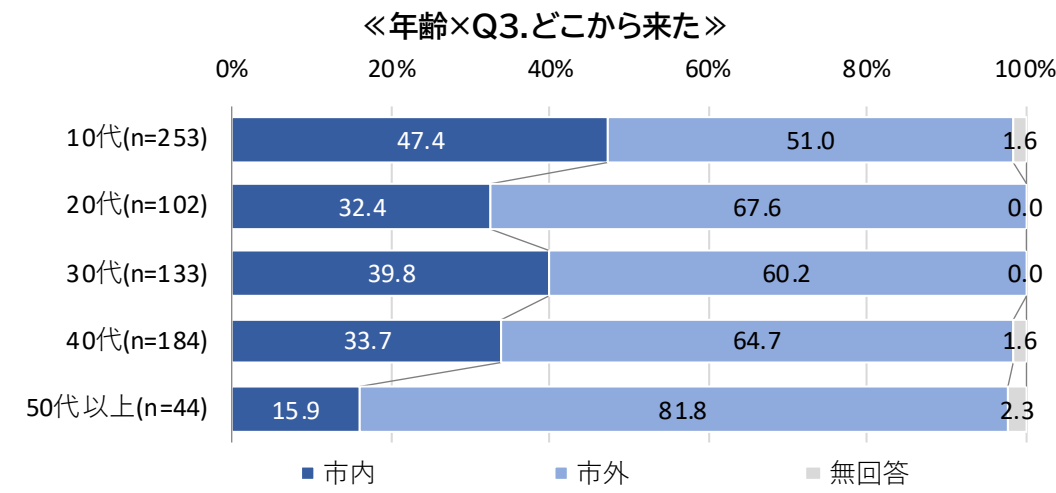
- 「宿泊地」について、「旅館・ホテル・民宿」が42.9%、「実家・親戚・知人宅」が28.6%であった。
- 「アイススケート場以外に浜田市内で行くところがあるか」については、の質問に対しては「ない」が73.6%、「ある」が20.2%であった。
- 訪れる予定の場所については「しまね海洋館アクアス」が26.0%、温泉が16.1%、「道の駅ゆうひパーク」9.9%などと続く。「その他」の回答が約38%と最も多く、うち具体的なスーパー名や「買い物」などの回答が15.6%、それ以外が22.9%あった。
- 浜田市内で使用する一人当たりの金額（アイススケート場利用料を除く、予定含む）については、「1,000円～3,000円未満」が21.8%、「1,000円未満」が17.2%、「3,000円～5,000円未満」が9.4%と続き、「10,000円以上」の回答は5.2%にとどまる。



5. 内部環境の整理

●サン・ビレッジ浜田の集客交流施設としての効果：令和4年度アイススケート場利用者アンケート結果より

- 年代別にみると、**各年代で市外居住者の比率が高**くなっており、特に、50代以上では81.8%となっている。また若年層や子育て世代については、10代の51.0%、20代の67.6%、30代の60.2%が市外からの利用となっている。
- 各年代で、約70%から80%が「他に行くところはない」と回答している。また、「宿泊なし」についても、40代以下では約70%～80%となっている一方で、50代以上は「宿泊あり」が51.4%となっている。
- 年代が高いほど、使用金額が高い傾向にあり、50代以上は5000円～1万円以上使用する割合が高い。

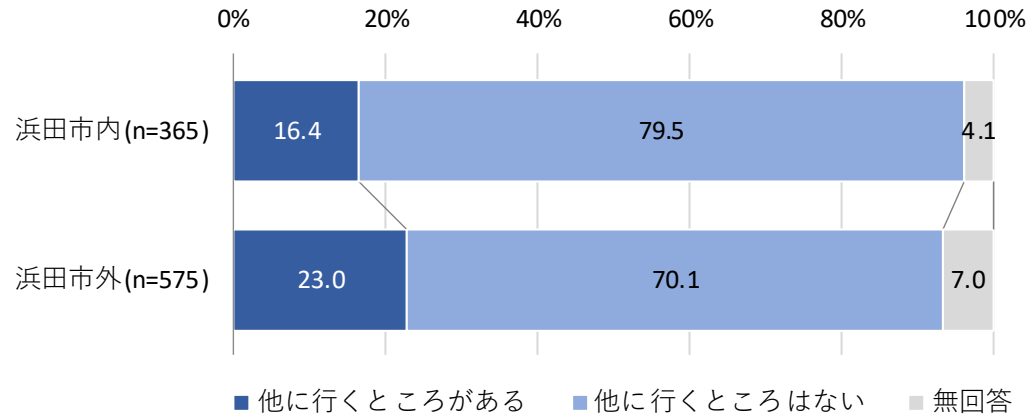


5. 内部環境の整理

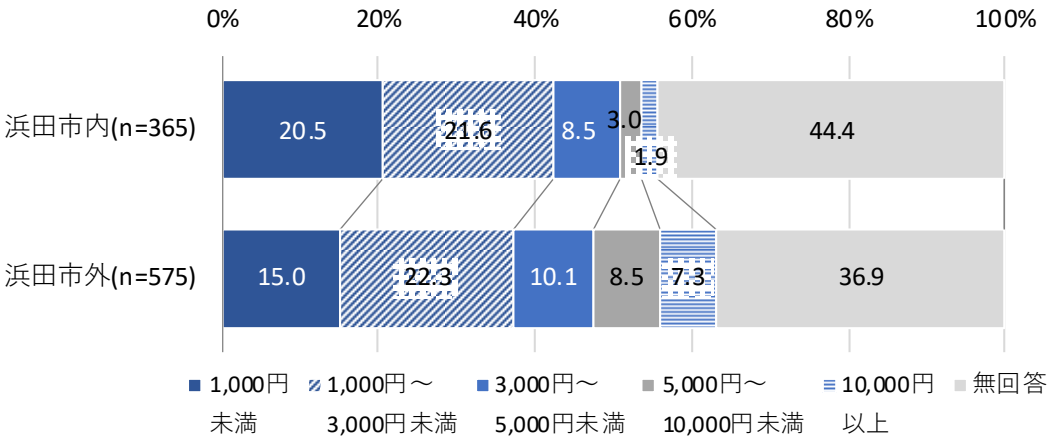
●サン・ビレッジ浜田の集客交流施設としての効果：令和4年度アイススケート場利用者アンケート結果より

- 市内居住者・市外居住者別にみると、市外居住者の方が他に行く所があり、使用金額が若干多い。
- 宿泊有無別にみると、宿泊をする人は他に行く所があり、使用金額も大きい。

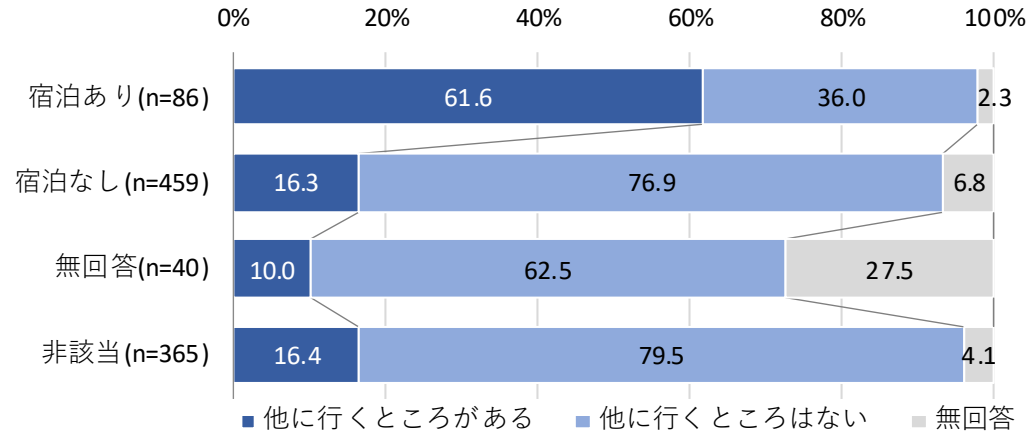
「Q3.どこから来た×Q6.他に行くところ」



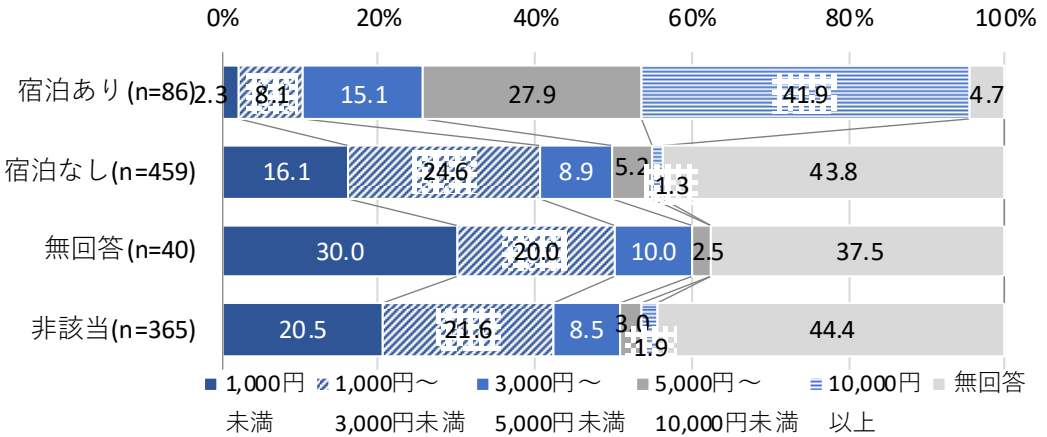
「Q3.どこから来た×Q8.使用金額」



「Q4.宿泊有無×Q6.他に行くところ」



「Q4.宿泊有無×Q8.使用金額」



6. 環境分析まとめ～サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する主要論点

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能検討に関するSWOT整理

- サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能検討に関する主なSWOT※整理は以下の通り。
 - ※ SWOT：事業の現状について、内部環境（強み＜Strength＞・弱み＜Weakness＞）と外部環境（機会＜Opportunity＞・脅威＜Threat＞）の4つの要素から把握し、より実現性の高い戦略やマーケティングに生かすワークフレーム
- 現状のアイススケート場としての「強み」「弱み」を捉えつつ、「機会」をしっかりと捉え、「脅威」に備え、持続的な施設運営を行っていくことを目的に据えたサン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能検討が重要になる。

強み	弱み
● 石見地方唯一の施設(県内では唯一ではない) ● 屋内施設であること(天候に左右されない) ● 高速道路からのアクセスの利便性 ● 高い市外利用比率(ただし、人数、経済効果は極めて少なく、限定的) ● サン・ビレッジ浜田スポーツ広場の隣接、拠点性(サッカー、地域プロスポーツ振興の萌芽) ● など	● 利用者の減少 ● 設備の老朽化(エネルギー効率の悪さ)、更新投資が必要 ● カーリング以外の公式戦ができない規模感 ● 市民のためのスポーツ・レクリエーション施設としての存在感の薄さ ● より持続的な収支構造への対応 ● 市民利用のアクセスの不便さ ● 厳しい事業環境、運営事業者の不在 など
機会	脅威
● スポーツの価値、役割等の拡大、地域課題解決の手段、SDGs推進の手段としてのスポーツへの期待 ● スポーツ及びスポーツ施設の都市経営資源としてのさらなる活用ポテンシャル、企業協働の活性化 ● 「島根かみあり国スポ・全スポ」サッカー(成年女子、少年男子、少年女子) 開催予定施設としての契機 など	● 人口(浜田市民、75Km圏内)の減少 ● 厳しい財政状況・自主財源 ● 高齢社会の進展 ● 全国的なアイススケート場の減少(持続的な経営の難しさ) ● スポーツ種目の多様化、志向の分散、アイススケートへの関心の薄まり など

6. 環境分析まとめ～サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する主要論点

●想定される施設(屋内空間)の活用類型

- アイススケート場以外の機能に転用する場合も含めた上で、想定される機能の類型及び主な用途、特徴・課題等は以下のとおり。

機能	主な用途／特徴・課題等
アイススケート場 (単機能)	- 現状のアイススケート場としての単体機能を保持するケース。 - カーリング(地方大会等含む)、フィギュアスケート(練習のみ)、レクリエーションとしてのアイススケートでの利用が可能。 - 通年での営業は想定しうが、周辺同類施設の営業状況やこれまでの利用実績・収支を鑑みると、通年での営業は、利用者数に見合わない大幅なコスト超過が想定される。 - 設備の老朽化にともない、大規模な設備更新投資が必要。 - 約20～30年ごとに、大規模な設備更新投資が発生。
アイススケート場 (ハイブリッド)	- 現状のアイススケート場としての機能に加え、シーズンごとに他機能にも転換しながら使用するケース。 - カーリング(地方大会等含む)、フィギュアスケート(練習のみ)、レクリエーションとしてのアイススケートでの利用に加え、他機能(全国類似事例ではプールや体育館とのハイブリッド利用例がある)の施設種別に応じたスポーツ種目での利用が可能。 - アイススケート場(単体機能)の設備更新投資等に加え、他機能利用(機能転換)のために必要になる施設設備投資が純増する。中長期的なライフサイクルコスト(LCC)※も同様。
体育館 (板張り)	- 体育館施設(板張り)として機能転用するケース。 - 幅広い屋内スポーツ(バレー・バスケット・バドミントン・インドアテニス・フットサル・卓球・パラスポーツ・アーバンスポーツ等)のスポーツ種別での利用が可能。 - 体育館利用としての設備投資が必要(床張り、空調等)。コスト低減の近年のトレンドとして、シート張りの手法もある。 - 体育館施設として利用する場合、現行の市内体育館の需給状況に留意する必要がある。
屋内人工芝施設 (人工芝)	- 屋内人工芝施設(ショートパイル)として機能転用するケース。 - 幅広い人工芝スポーツ(フットサル・サッカー・野球・インドアテニス・グラウンドゴルフ・アーバンスポーツ等)のスポーツ種別での利用が可能。 - 屋内人工芝施設としての設備投資が必要(人工芝敷設、空調等)。概ね10年ごとの定期的な人工芝の張り替えが必要。 - 現行の市内体育施設等との差別化を図ることが可能。
新たなスポーツ等空間 (土間)	- 既存のアイススケートリンクの基礎(土間)をそのまま活用して機能転用するケース。 - コンクリート空間に適したスポーツ(スケートボード、BMX、インラインスケート等)のスポーツ種別での利用が可能。 - 基礎の傷みを補修する最低限の設備投資、空調等の設備投資が必要。

※ ライフサイクルコスト (LCC) : 建物のライフサイクルにわたって発生する費用。 建設費などの初期費用から、水光熱費、点検・保守・清掃費などの運用維持管理費用、修繕・更新費用まで含めた費用。

7. サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する市民意見(アンケート結果)

●市民アンケートの概要

調査対象	■ 19歳以上の浜田市民 2,000名 － 29歳以下／30歳～39歳／40歳～49歳／50歳～59歳／60歳以上の各カテゴリごとに400人名を任意抽出(階層別均等抽出法)
調査期間	■ 2023年9月19日(火)～2023年9月30日(土) (2023年10月17日(火)まで延長)
調査方法	■ 郵送によるアンケート調査 － 回収は郵送・webのハイブリッドにて実施
配布・回収数	■ 配布2,000件 ■ 目標回収数 500件(回収率25%) ■ 回収 739件(37.0%) ● 郵送回収は三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社が実施
集計方法	2023年9月1日(金)時点の「住民基本台帳人口に基づく人口、人口動態」を基に、ウェイトバック手法を適用 目的: 本来の調査対象である母集団(浜田市民全体)の傾向に近づけるための集計とするため

●中・高生アンケートの概要

調査対象	■ 浜田市内の中学校及び高等学校、特別支援学校に通う全生徒 (全数調査) 約2,200人 中学校: 9校 高校: 3校 特別支援学校: 1校
調査期間	■ 2023年10月3日(火)～2023年10月20日(金) (2023年10月30日(月)まで延長)
調査方法	■ Webアンケート方式
回収数	■ 目標回収数 500件 ■ 回収 631件

7. サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する市民意見(市民アンケート結果)

(参考)「市民アンケート調査」における「ウェイトバック集計」の考え方

- 調査対象を年代別に均等抽出したため、調査の全対象(「母集団」)の傾向に近づけるための重み付けを実施。
 - 「市民アンケート調査」では、各年代(19歳以上29歳以下／39歳以下／49歳以下／59歳以下／60歳以上)で400名ずつ(計2,000名)を調査対象として抽出しているが、**浜田市の年代別の人口構成比割合と異なるため、本調査において得られた結果が、必ずしも、調査の全対象(「母集団」)である浜田市市民全体の傾向を反映しているものとはいえない。**
⇒ したがって、**本調査において得られた結果を、調査の全対象(「母集団」)である浜田市市民全体の傾向により近づけるため、実際の年代別人口構成比割合に基づいて、回答数に重みづけ(ウェイトバック)を施して集計している。**
 - この操作は、**統計学において確立された手法であり、統計的な有意性を失うものではない。**また、**単純集計(単一・複数回答設問共に)を集計する際のみこの手法を利用して**おり、クロス集計においては利用しない。
 - なお、年代をたずねる設問で「無回答」であった回答者の回答はウェイトバックを施していないため、設問によっては、**ウェイトバック集計後の合計値が、本来の回答者数(「n=」で示される値)と合致しない場合がある。**

《ウェイトバック集計のイメージ》

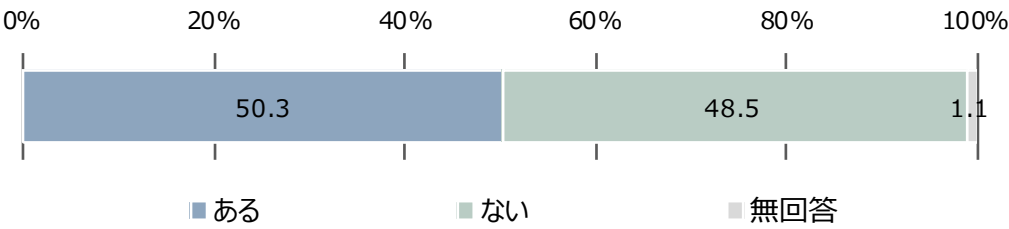
本調査の実際の調査対象 (年代別に均等抽出)	① 2023年 9 月1日現在の住民基本 台帳に基づく年代別構成比 (※分母は19～79歳の総人口)	② アンケートの年代別構成比	③ ウェイトバック 補正值 (①÷②)	④ 純粋な 集計	⑤ ウェイトバック集計 (④×③)
19歳以上29歳以下	11.8% (4,213人)	11.2% (82サンプル)	1.0517...	82	86.2394... (82×1.0517...)
39歳以下	12.0% (4,283人)	19.3% (141サンプル)	0.6218...	141	87.6738... (141×0.6218...)
49歳以下	16.7% (5,958人)	20.5% (150サンプル)	0.8131...	150	121.965... (150×0.8131...)
59歳以下	17.0% (6,092人)	19.8% (145サンプル)	0.8600...	145	124.700... (145×0.8600...)
60歳以上 (～79歳以下)	42.5% (15,214人)	29.2% (214サンプル)	1.4553...	214	311.4342... (214×1.4553...)
不詳 (当該設問無回答)	—	1.0% (7サンプル)	1.0 (加重しない)	7	7
Total	35,760人	739サンプル	—	739	739 (※合致しない場合あり)

7. サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する市民意見(市民アンケート結果)

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場の認知度・来場経験

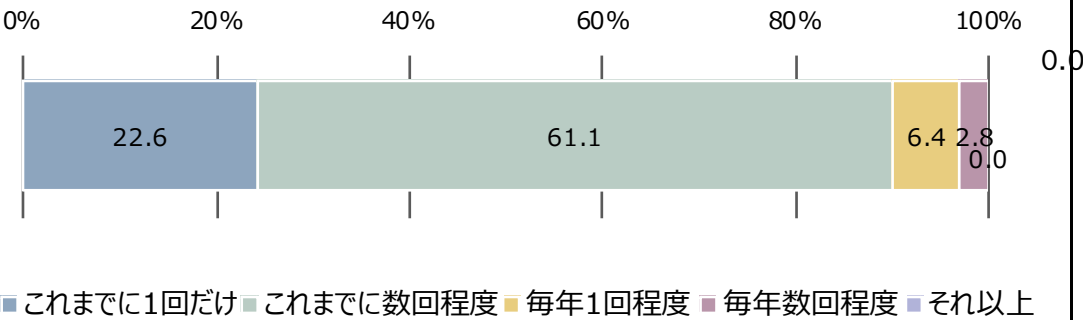
■ アイススケート場利用有無(n=739)

- アイススケート場利用有無について聞いたところ、「ある」が50.3%、「ない」が48.5%とほぼ同数であった。



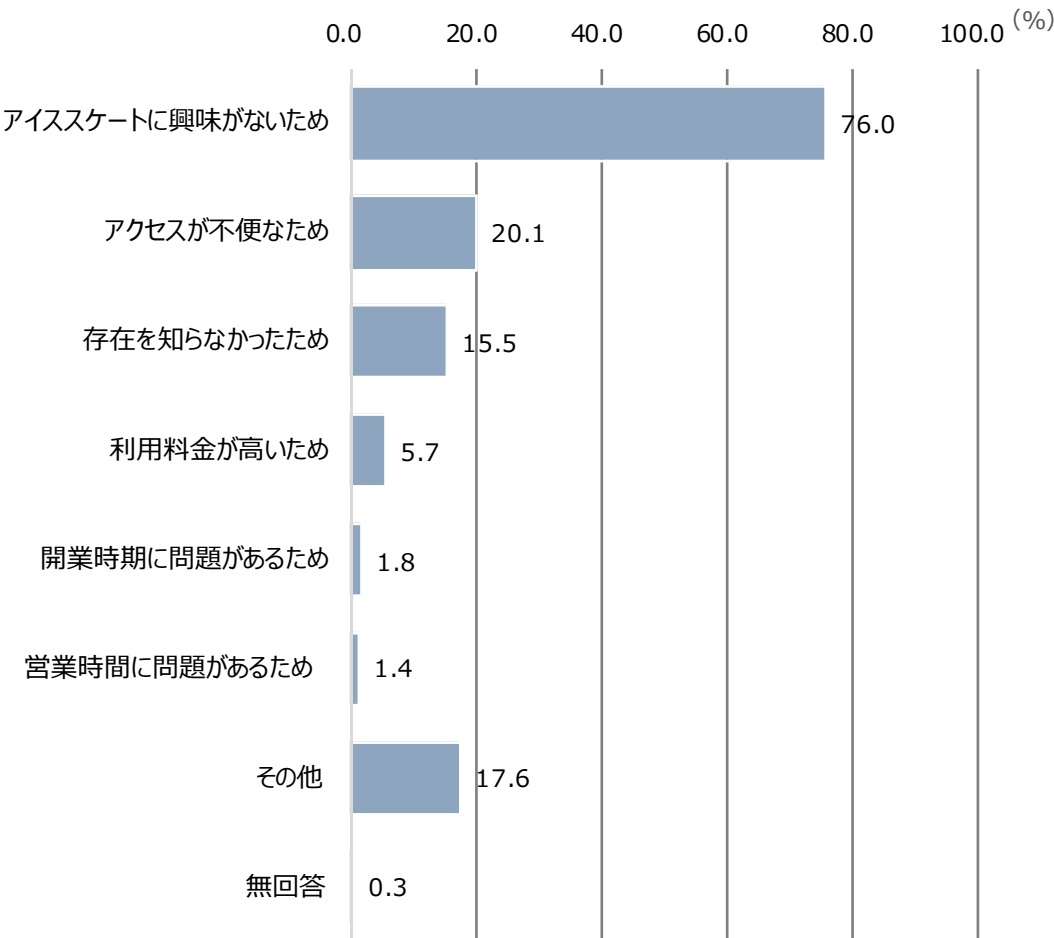
■ 利用頻度(n=371)

- 利用頻度について聞いたところ、「これまでに数回程度」が61.1%と最も多く、次いで「これまでに1回だけ」が22.6%、「毎年1回程度」が6.4%であった。なお、毎年数回以上は該当なしであった。



■ 利用なしの理由(n=359) ※参考値として取り扱い

- 利用なしの理由について聞いたところ、「アイススケートに興味がないため」が76.0%と最も多く、次いで「アクセスが不便なため」が20.1%、「存在を知らなかったため」が15.5%であった。

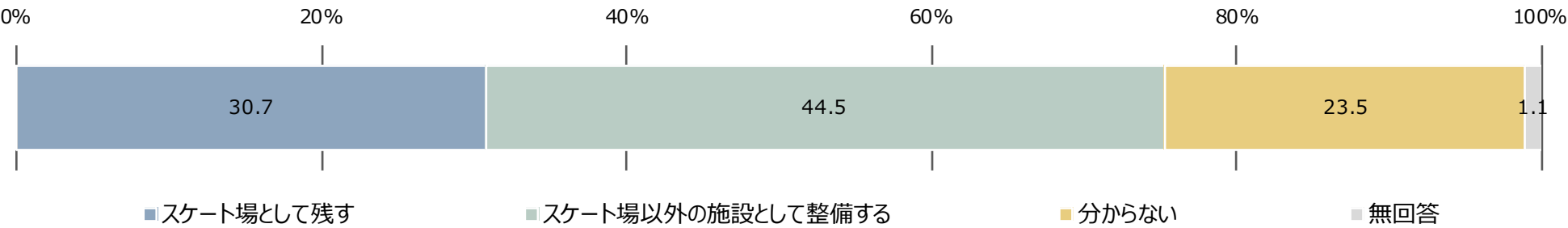


7. サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する市民意見(市民アンケート結果)

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場のより効果的な活用の方性(アンケート調査より)

■ アイススケート場の望ましいあり方(n=739)

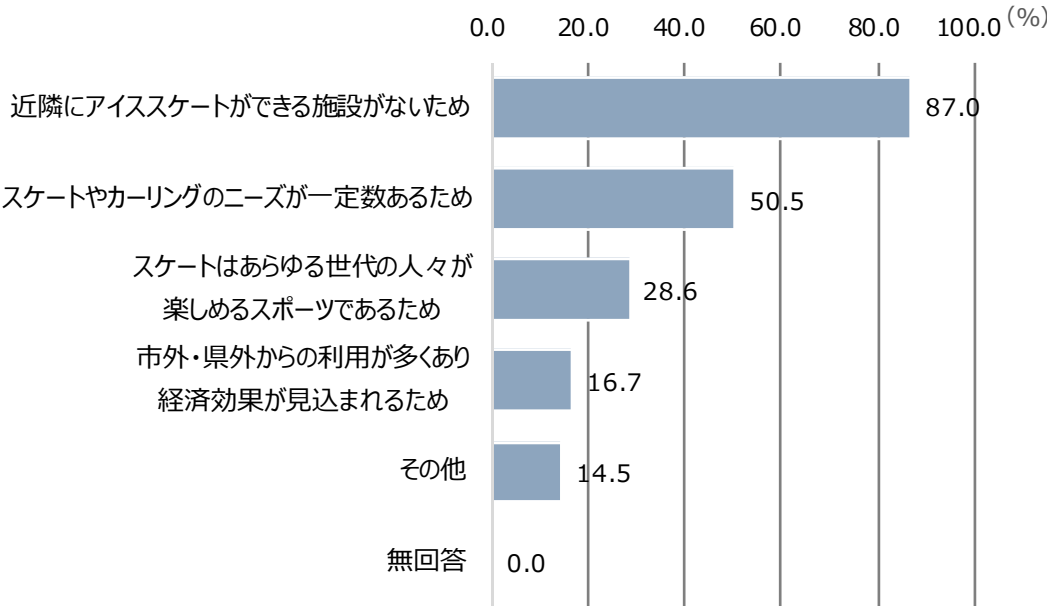
- アイススケート場の望ましいあり方について聞いたところ、「スケート場以外の施設として整備する」が44.5%(329件)と最も多く、次いで「スケート場として残す」が30.7%(227件)、「分からない」が23.5%(174件)であった。



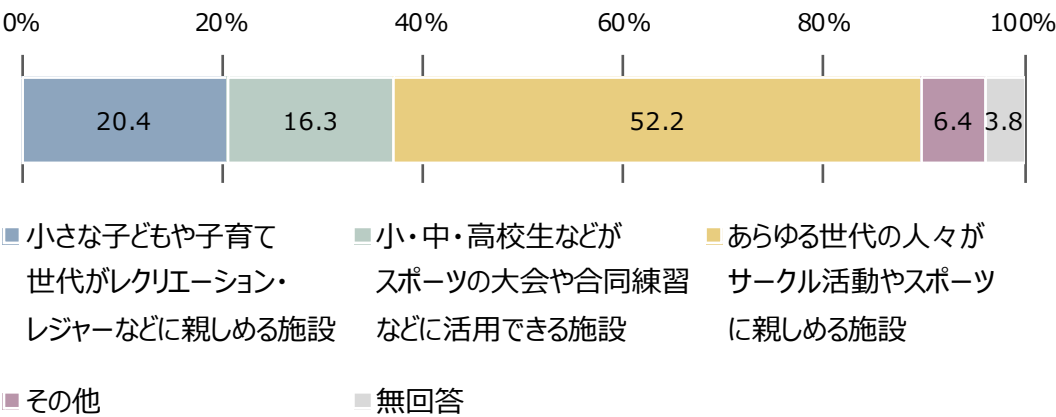
アイススケート場として残す

アイススケート場以外に整備
わからない

■ アイススケート場として残すことが望ましい理由(n=227)



■ アイススケート場以外で望ましい施設(n=503)

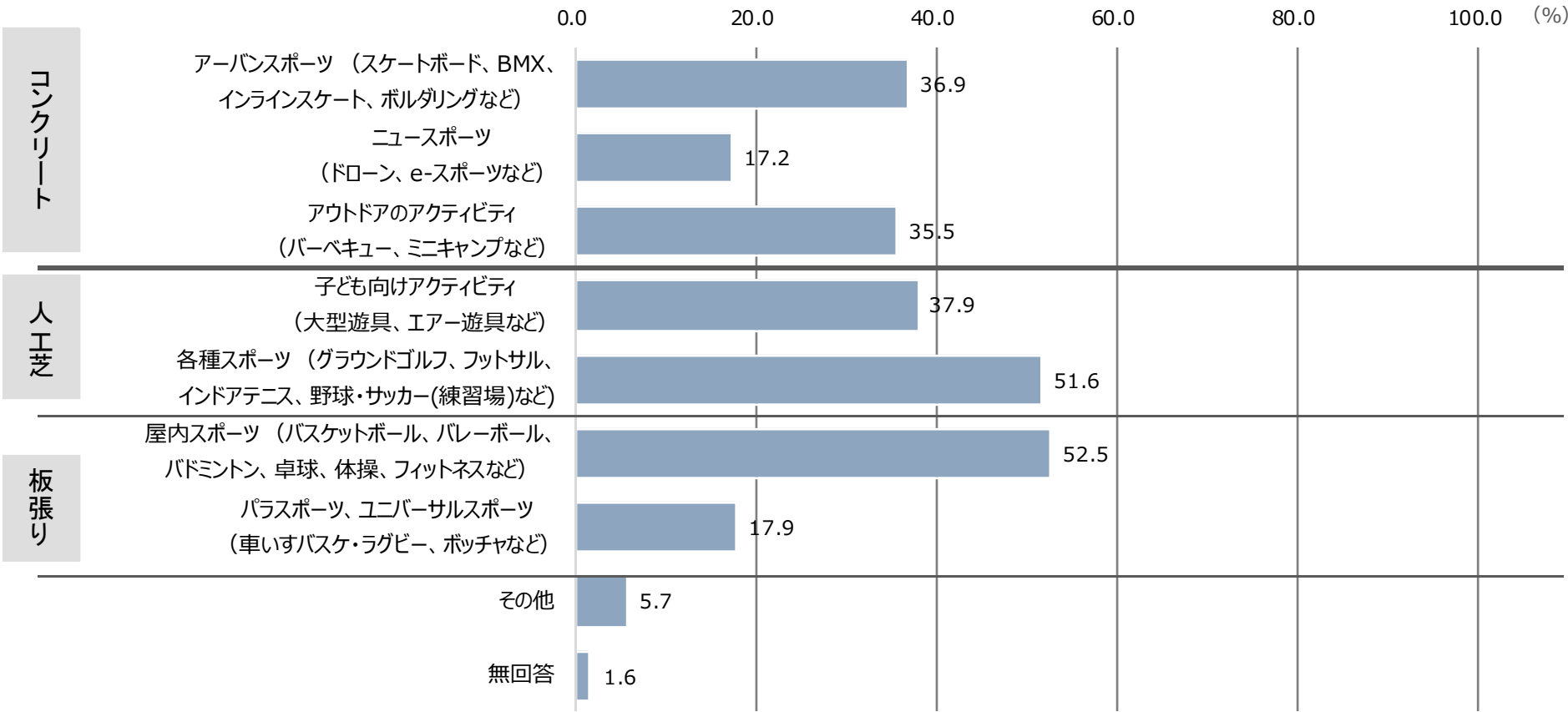


7. サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する市民意見(市民アンケート結果)

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場のより効果的な活用の方性(アンケート調査より)

■ どのようなスポーツやアクティビティ(活動)ができると良いか (n=503)

- 床面仕上げ別でみると、板張り、人工芝の利用形態を希望する回答が多かった。
- 板張りの体育館利用は屋内スポーツのニーズは最も高い(52.5%)が、パラスポーツのニーズは低かった(17.9%)。



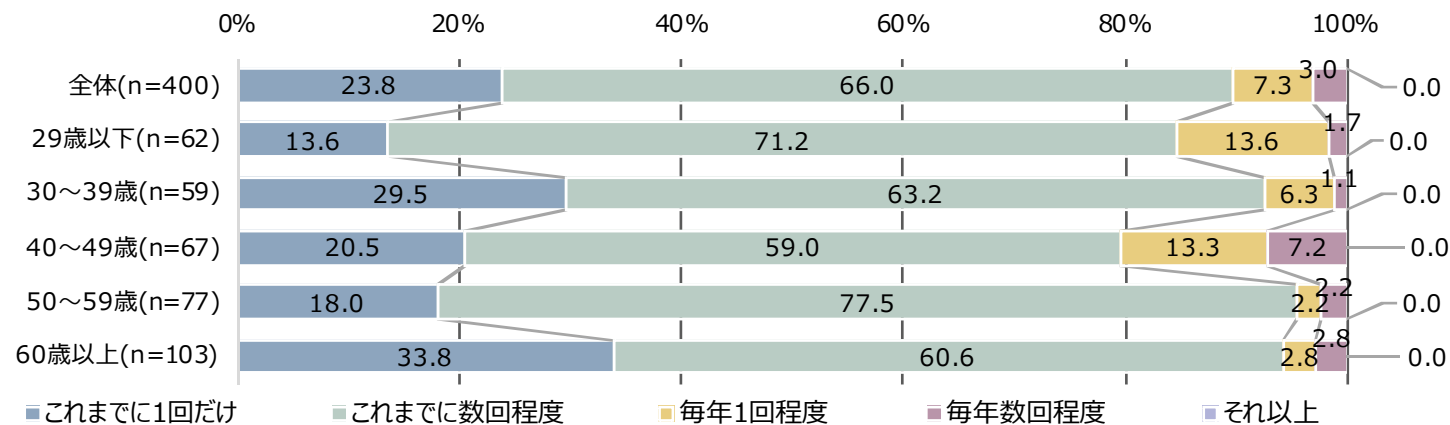
その他：
サウナ／音楽練習／多目的なフリースペース／複合アミューズメント施設 等

7. サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する市民意見(市民アンケート結果)

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場の利用頻度(年代別クロス集計)

■ 利用頻度(n=400)

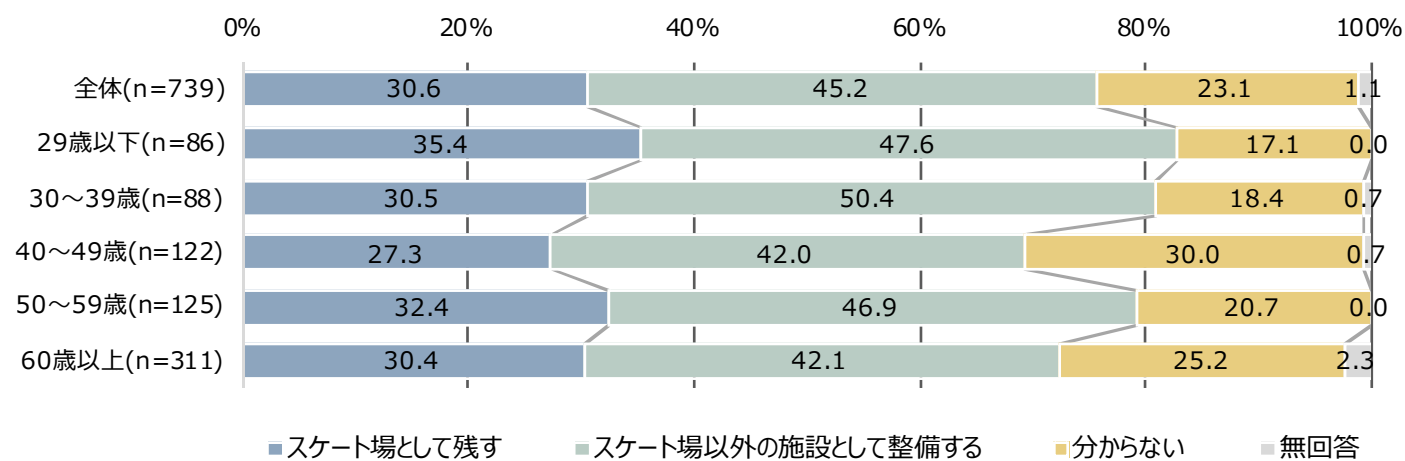
- 利用頻度について年代別にみると、いずれの年代でも「これまでに1回だけ」または「これまでに数回程度」と回答した割合が高くなっているが、「29歳以下」及び「40～49歳以下」で、「毎年1回程度」と回答した割合が比較的高くなっている。



●サン・ビレッジ浜田アイススケート場のより効果的な活用の方向性 (年代別クロス集計)

■ アイススケート場の望ましいあり方(n=739)

- アイススケート場の望ましいあり方について年代別にみると、いずれの年代でも「スケート場として残す」と回答した割合よりも、「スケート場以外の施設として整備する」と回答した割合のほうが高くなっており、特に、「30～39歳」の回答では「スケート場以外の施設として整備する」が過半数を占めている。

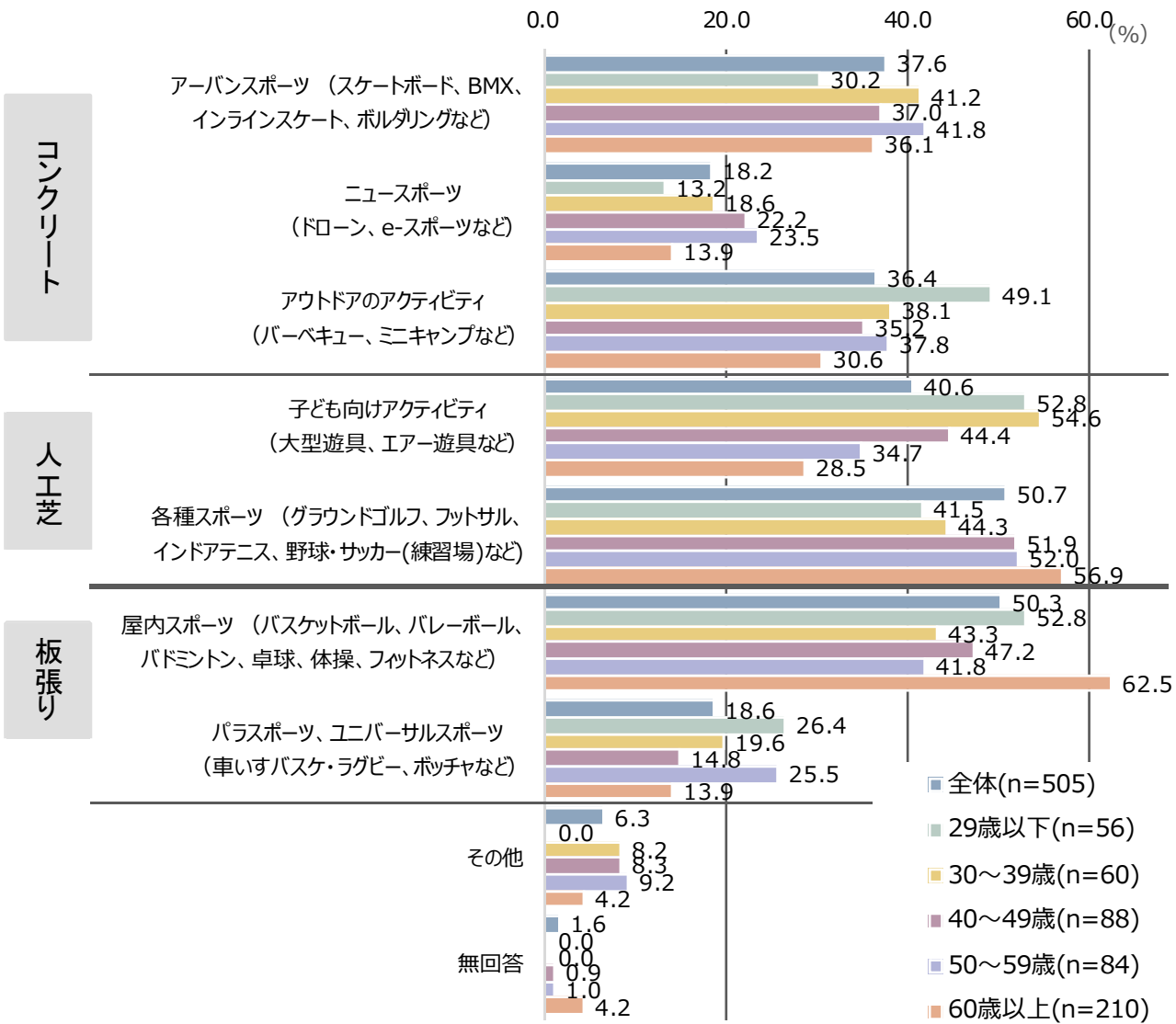


7. サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する市民意見(市民アンケート結果)

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場のより効果的な活用の方角性(年代別クロス集計)

■ どのようなスポーツやアクティビティ(活動)ができると良いか (n=505)

- 30代以下では「アウトドアのアクティビティ」「子ども向けアクティビティ」を希望する回答が多く、40代以上では「各種スポーツ」「屋内スポーツ」を希望する回答が多かった。
- 床面仕上げ別にみると、人工芝を希望する回答のうち、「子ども向けアクティビティ」を希望する回答は若年層ほど多く、「各種スポーツ」を希望する回答は高年層ほど高い傾向にあった。
- 板張りの体育館利用のうち、「屋内スポーツ」を希望する回答は60歳以上がもっとも多く(62.5%)、次いで29歳以下(52.8%)が多かった。

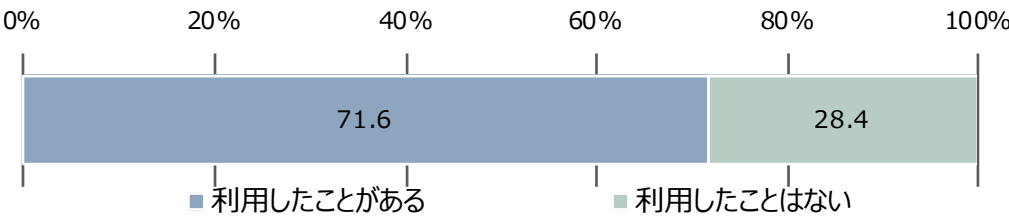


7. サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する市民意見(中・高生アンケート結果)

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場の認知度・来場経験

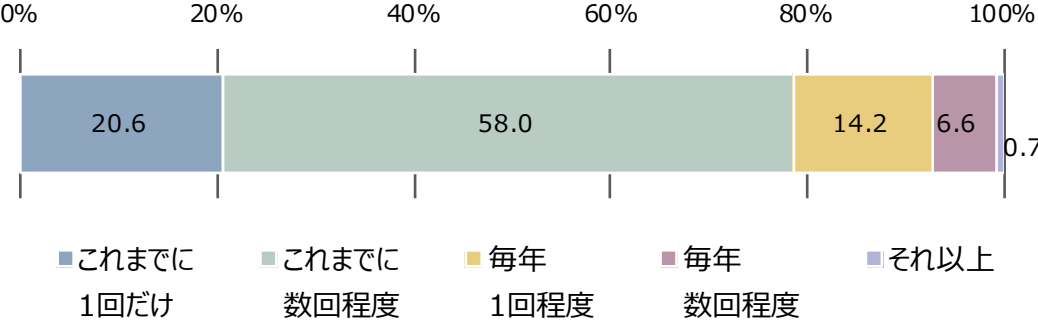
■ アイススケート場利用有無(n=631)

- アイススケート場利用有無について聞いたところ、「ある」が71.6%(452件)、「ない」が28.4%(179件)であった。



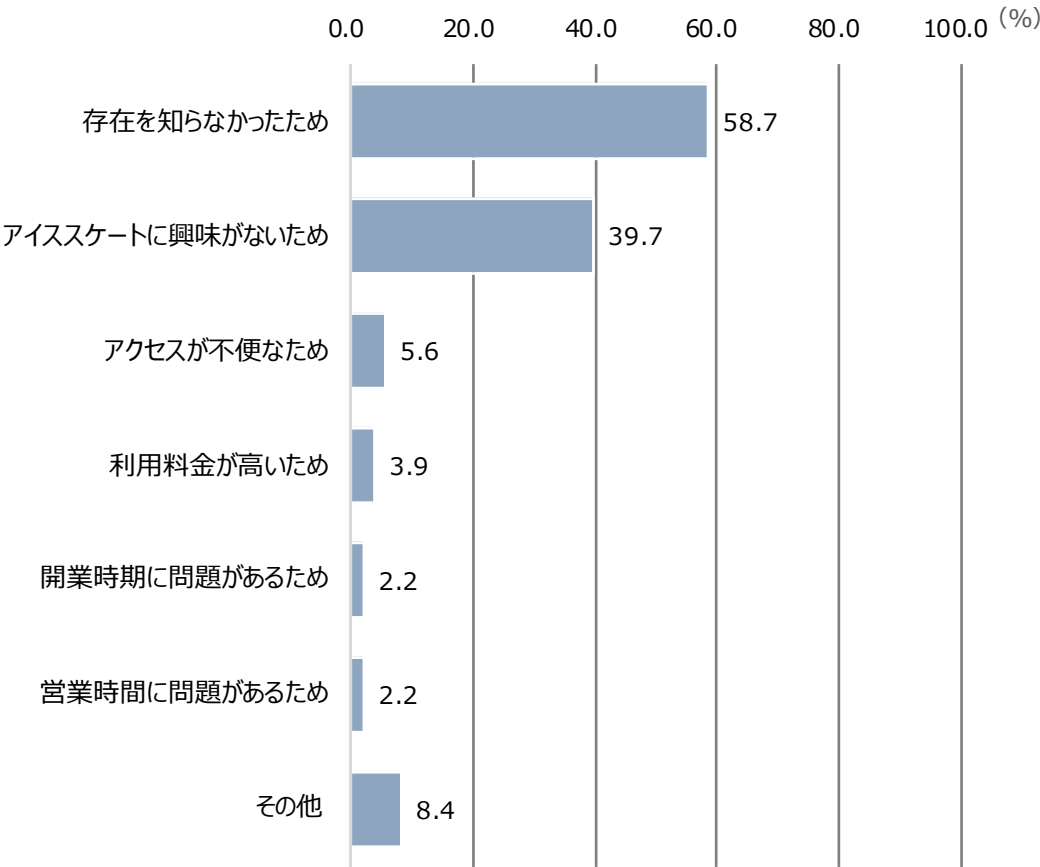
■ 利用頻度(n=452)

- 利用頻度について聞いたところ、「これまでに数回程度」が58.0%(262件)と最も多く、次いで「これまでに1回だけ」が20.6%(93件)、「毎年1回程度」が14.2%(64件)であった。



■ 利用なしの理由(n=179)

- 利用なしの理由について聞いたところ、「存在を知らなかったため」が58.7%(105件)と最も多く、次いで「アイススケートに興味がないため」が39.7%(71件)であった。

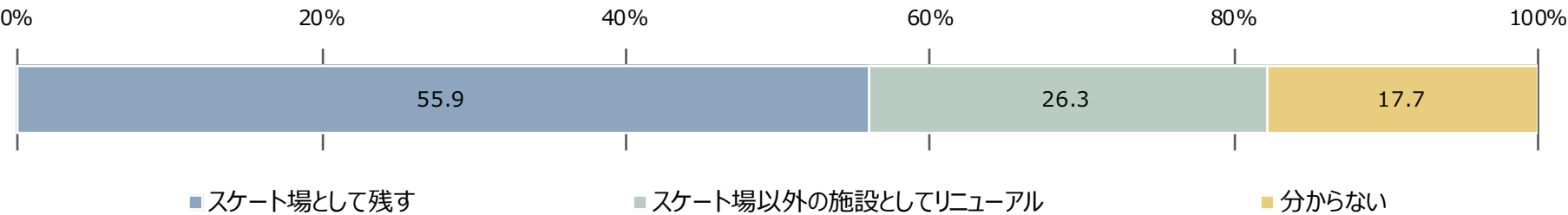


7. サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する市民意見(中・高生アンケート結果)

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場のより効果的な活用の方向性(アンケート調査より)

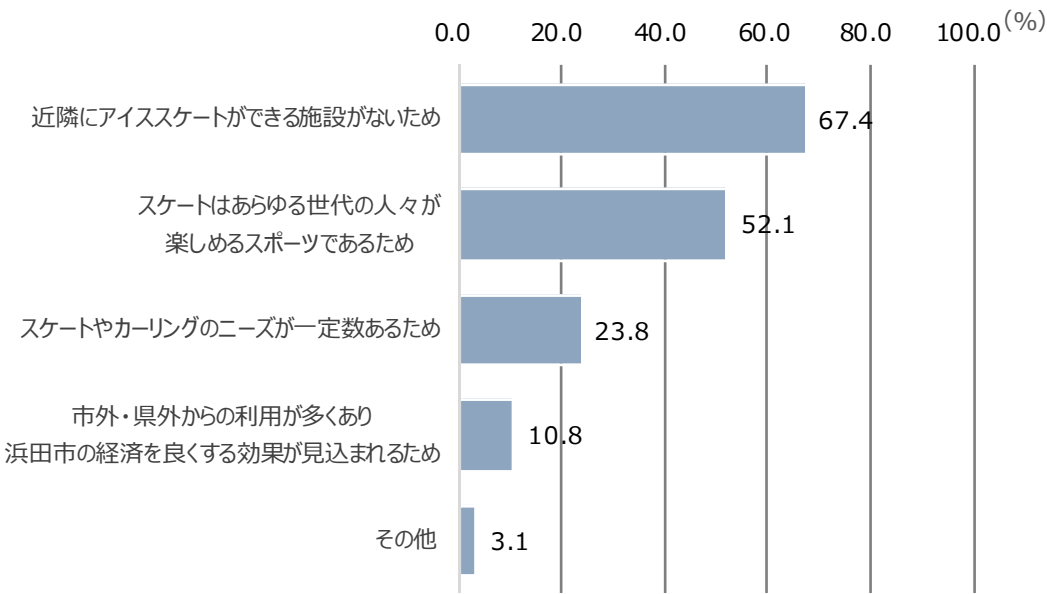
■ アイススケート場の望ましいあり方(n=631)

- アイススケート場の望ましいあり方について聞いたところ、「スケート場として残す」が55.9%(353件)と最も多く、次いで「スケート場以外の施設としてリニューアルする」が26.3%(166件)、「分からない」が17.7%(112件)であった。
- 中高生向けアンケートでは「スケート場として残す」が過半数を占める一方で、市民アンケートのうち、特に39歳以下の回答では、「スケート場以外の施設としてリニューアルする」が過半数を占めており、傾向が異なる。



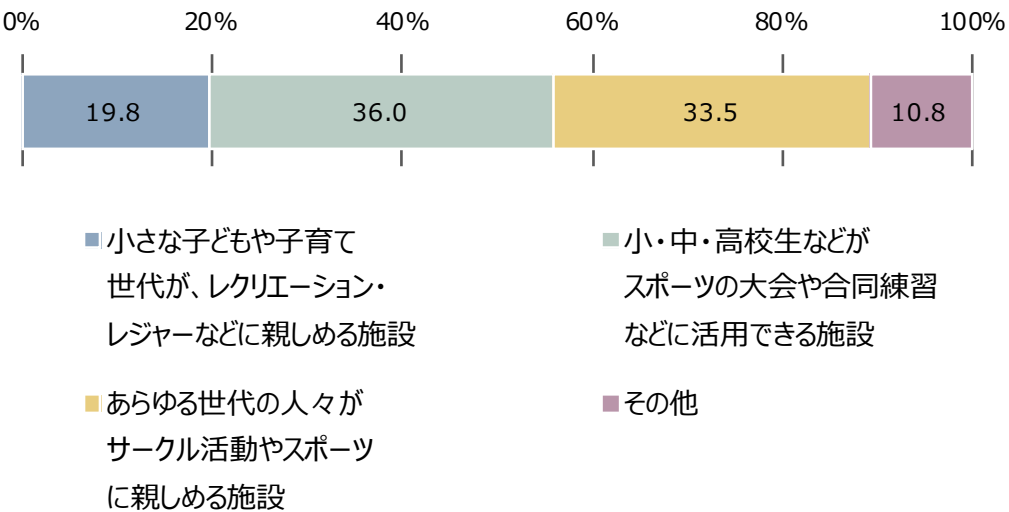
アイススケート場として残す

■ アイススケート場として残すことが望ましい理由(n=353)



アイススケート場以外に整備 わからない

■ アイススケート場以外で望ましい施設(n=278)



8. サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する事業者意見(民間事業者)

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場の運営に関する民間事業者ヒアリング・アンケート実施概要

調査対象	■ スポーツ施設の管理運営実績を持つ事業者 27社 アンケート:19社 ヒアリング:8社 ※ヒアリング対象事業者は、今回の事業内容についての専門的知見・実績を特に有する事業者を選定
調査期間	■ 2023年9月15日(金)～2023年10月4日(水)
調査方法	■ アンケート: メール等によるアンケート送付・回収 ■ ヒアリング: 対面・オンライン
回収数等	■ アンケート回答数 5件 (対応不可 4件 回答なし等 10件)

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場の運営に関する事業者実感(民間事業者ヒアリングより)

■ アイススケート場の収益確保・利用者拡大のハードルは高い ● 営業シーズンに限られるため、年間を通じての収益確保が難しい。損益を補填する公共補填（指定管理料）は必須。 ● 一般的に、幅広い層の利用を大幅に喚起する特効薬はない。リピーター層の地道な獲得や安定的な団体利用の確保により、固定収入を確保する必要がある。 ● 浜田市においては市内の競技人口に限られており、市外・県外からの利用を取り込む必要があるが、リンクが小さく、カーリング以外の公式試合を開催することができないため、利用拡大も限られる。 ● 小・中学校等の授業利用を取り込むことは考えられるが、過去の利用状況をみても、地域に十分アイススケート文化が根付いているとはいえない。 ■ 現在の収支構造・利用状況や運営実績の不足から、アイススケート場の運営意向のある事業者は限られている ● アイススケート場については運営実績が乏しく運営イメージがわからない。 ● アイススケート場として運営する場合は費用面が懸念であり、現在の収入・利用状況に鑑みると難しい。 ● （地元企業以外の場合）関西・中国地方の拠点から距離が離れており、人員（社員）配置・経営管理の観点からみて参入障壁が高い。 ● 競技団体との繋がりがなく、また人的リソースも不足している状況であるため、アイススケート場の運営への参入は難しい。
--

8. サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する事業者意見(民間事業者)

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場の利活用ポテンシャル・市場評価(民間事業者ヒアリングより)

■ 屋内運動施設への転用が望ましい

- スポーツ広場と連携可能な屋内運動施設に転用し、市内の子どもたちが運動・スポーツに親しむための拠点や高齢者が日常的に運動・健康づくりの活動を楽しむための拠点として活用できるとよい。
- 浜田市の方針である”若者が暮らしやすいまちづくり”を踏まえると、試合・大会会場ではなく、気軽に運動・スポーツを楽しめる施設が望ましい。イベントや展示会など、スポーツに限らない幅広い利用も期待できる。

■ 屋内運動施設の床面の設えとしては、板張りまたは人工芝が望ましい

- 隣接するサッカーグラウンド・フットサルコートとの一体的な利用を踏まえると、サッカー利用しやすい人工芝が望ましい。
- 一方で、子どもたちが多目的に運動・スポーツに親しめる拠点とするためには、多様なスポーツ種目が実施可能である板張りの体育館が望ましい。
- 安定的な利用・収入が期待されるインドアテニスとフットサル利用については、人工芝・板張りともに実施可能だが、人工芝の方が適している。

■ アーバンスポーツ・ニュースポーツの専用施設として通年・常設で運営することは難しい

- 多様な活用の可能性を検討できる施設躯体であり、2,000㎡規模はスケートパークとしては十分である。一方で、周辺人口が少ないこと、駅からのアクセス性が悪く、スケートボード等のアーバンスポーツがターゲットとする年齢層が気軽に来訪できる立地ではないことから、スケートボード場の専用施設として通年・常設で運営することは難しい。
- ドローンやeスポーツ等のニュースポーツについても同様。通年・常設の施設ではなく、他機能をベースとするなかで、仮設・イベント等の実施によって需要を受け入れることが現実的だろう。

■ 既存施設との競合には留意しながら、新たな利用シーンを生み出すことが重要である

- 浜田市全体として人口減少が進む中で、既存施設と類似する機能を整備しても施設間で利用者の取り合いになるため望ましくない。市内のスポーツ環境として、今ある屋内施設で十分需要を満たしている印象はある。子ども・若者等の新たな利用シーンを生み出せる機能であることが重要である。

■ 屋内運動施設へ機能転用した場合は、施設運営へ参画意向のある事業者は多い

- スポーツ広場と屋内運動施設を一体的に運営できる事業スキームが望ましい。
- 「管理」だけでは実績・ノウハウを活かせないため、自主事業を含めた「運営」の自由度とそこに対する資金的なサポートがあることが重要である。

8. サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する事業者意見(利用団体)

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場の運営に関する利用団体アンケート実施概要

調査対象	■ 島根県カーリング協会、石見スケートクラブ、浜田スケートクラブ、スケート教室講師
調査期間	■ 2023年11月20日(月)
調査方法	■ ヒアリング： 対面

●サン・ビレッジ浜田アイススケート場の運営に関する利用団体実感

【カーリング】

■ 利用者の増加に向けては、広域からの誘客や安定的な利用環境の確保が求められる

- 県内の競技人口を増やすことには限界があるため大会実施や合宿誘致により、広域から誘客できるとよい。
- 選手控室が狭いことや放送機材を設置できる設備がないことから、全国大会の開催は難しい。一方で、周辺地域の民間リンクに比べると比較的安価に利用できることから、西日本大会等の利用ニーズはある。
- カーリングの国内リーグを立ち上げる動きもあり、リーグ戦会場の1つとして、サン・ビレッジ浜田も想定される。
- 現状はフィギュアスケート等と同じリンクを使用しているため、練習利用のたびにリンクをカーリング仕様に整備する必要がある。1面だけでもカーリング専用にし、安定的に練習利用できる環境が整えば、利用者数は増えるだろう。

【フィギュアスケート】

■ 営業日数の増加や安定的な運営、情報発信によって利用者の拡大が見込まれる

- 営業日数の増加や安定的な運営・情報発信によって、年間約10,000人に利用者を増やせるのではないかと。
- 設備更新により、条例で定められた期間を開業できるようになれば、利用者数は増えるだろう。10月や5月は湖遊館（出雲市）やひろしんビックウェーブ（広島市）が閉館しているため、広域からの利用が大幅に増えることが見込まれる。
- 10年前から「アイススケート場が閉館する」という情報が新聞等で取り上げられており、市民のなかには開館していることを知らない人もいた。設備が整って安定的に開業・運営できるようになれば、きちんと市民へ情報発信もでき、市内の利用者も増えることが期待できる。スケート教室や各種プログラム等を拡大することも考えられる。
- 利用者増に向けては、学校利用を拡大することも有効な手段の1つである。
- スケートは年齢によらず楽しめる生涯スポーツなので、子どもだけでなく、親世代等への情報発信や体験会等のプログラムを充実させることも考えられる。（湖遊館では、島根県スケート連盟が大人のスケート教室を開催し、人気がある）

9. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察

●市民アンケート及び利用団体・企業ヒアリング等を踏まえた施設活用類型の比較整理(まとめ)
→ 市民・若者ニーズ、関係者企業等ヒアリングによる実現性などから、詳細検討の対象として3パターン程度選択

	アイススケート場 (単体)	アイススケート場 (ハイブリッド)	体育館 (板張り)	屋内人工芝施設 (人工芝)	新たなスポーツ等 空間(土間)
市民アンケート	- アイススケートへの興味が低く、利用頻度も低く、定期的な利用者は少ない。 - 存続についての要望度は低い。	アイススケート場の存続を、夏季利用のハイブリッド化によって実現できないかとする自由意見が一部みられる。	機能転用する場合の要望度としては最も高く、特に屋内スポーツへの要望度が高い。	機能転用する場合の要望度としては2番目に高く、特にグラウンドゴルフやフットサルなどの各種スポーツへの要望度が高い。	一定の要望はあるものの、要望度としてはそれほど高くない。
若者アンケート	- 学校や地域行事等で一定の利用はあるものの、個人利用の実態は少ない。 - 存続については要望度が高い。	アイススケートに限らず、複合商業機能や多目的化など、レクリエーションの選択肢の拡大を望む意見が多くみられる。	機能転用する場合の要望度としては最も高く、特に屋内スポーツへの要望度が高い。	機能転用する場合の要望度としては2番目に高く、特に子ども向けの活動の場への要望度が高い。	一定の要望はあるものの、要望度としてはそれほど高くない。
民間事業者 ヒアリング等	- 本施設の事業性はかなりシビアに捉えられ、積極的な運営意向を有する事業者は不在。 - 現行以上の大会利用・合宿利用による広域集客は難しく、学校利用を含む地域利用の拡大が重要。	- 同左。「ハイブリッド」とした場合でもそれぞれの需要とのミスマッチが指摘され、事業性は低い。 - アイススケート場から体育館へ転換する場合、毎年1千万円以上の転換コストがかかる。	- 多様なスポーツ種目に対応でき、利用者層の拡大が期待できる。 - 類似の既存施設が周辺に立地しており、利用面での競合が懸念される。	- サッカー拠点として、スポーツ広場と一体的に活用できる。 - インドアテニスにも適しており、安定した利用・収入が見込める。 - 費用面で板張りよりも低コストである。	土間での利用は用途が限られる。主な用途として想定されるアーバンスポーツ(スケートボード等)の専用施設として、通年・常設で運営することは難しい。
利用団体	営業日数の増加や安定的な利用環境の確保により、一定の利用者増が見込まれる	—	—	—	—
検討優先度	中	低	高	高	低

9. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察

●公共施設(スポーツ・レクリエーション施設)に求められる持続的な施設経営の視点

- 人口減少社会、成熟社会における公共施設（スポーツ・レクリエーション施設）に対する社会的要請として、持続的な「スポーツ施設経営」が強く求められている。
- サン・ビレッジ浜田アイススケート場においても、機能転用の有無に関わらず、以下のような視点・取組を推進していくことが求められ、これらの視点を加味した各種パターンの想定運営モデル（シナリオ）を整理する。

■BSC(バランススコアカード)※の活用による戦略立案・実行管理(例)

視点	求められる主な取組内容(例)
財務の視点	持続的な運営収支の確立、適切な受益者負担による利用料金収入
	寄付・協賛、現物提供などの多角化 など
顧客の視点	既存利用者のスポーツ環境の確保
	新たな利用シーン、利用者の獲得(若者・高齢者・障害者等)
	利用者の受益実感の向上 など
業務プロセスの視点	ニーズの把握と魅力的・効果的な自主事業(サービス)の開発・提供
	運営における民間活力・企業のマーケティングと連動した協賛手法・スポンサーシップ等の誘導
	政策連動(効果)の拡大 など
学習と成長の視点	スタッフの能力開発
	合理的な更新投資、維持管理・運営費用の投資 など

※ BSC（バランススコアカード）…1990年代初頭に米国ハーバード・ビジネススクールのロバート・S・カプラン教授、経営コンサルタントのデビッド・P・ノートンにより開発された経営管理手法。「財務」「顧客」「業績プロセス」「成長・学習」の4つの視点で会社の業績や将来性、取組の方針などを捉え、全体をバランスさせながら経営管理をおこなう。

9. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察

●主要活用パターンの詳細整理(シナリオ) ケース①:スケート場(単体)

ケース①:スケート場(単体) 運営モデル(シナリオ)	
主な対応スポーツ種目等	カーリング(地方大会等含む)、フィギュアスケート(練習のみ)、レクリエーションとしてのアイススケート 半期(冬季)営業・全天候対応
主な利用形態	一般利用、団体利用、大会利用(カーリング) 従前の利用形態・稼働状況、設備更新インパクト、広報・営業等の強化を見越して、利用形態・稼働等を想定
再整備・更新等イメージ	社会要請に対応すべく、環境負荷が少なくエネルギー効率の良い設備に更新 約15年ごとに同等の大規模設備更新投資が発生
運営イメージ	直営または指定管理(料金収受代行制) 従前の施設使用料を基準に設定、受益者負担増(使用料の値上げ)も考えられる。



9. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察

●主要活用パターンの詳細整理(シナリオ) ケース①:スケート場(単体)

- ケース①：スケート場（単体）の場合に想定される主要な整理項目については以下のとおり。

ケース①:スケート場(単体) 主な整理項目	
①利活用シーンの広がり	広報・営業等の強化による利用者の増加が望まれる 用途が変わらず、スポーツ種目も限られるため、現状以上の利用シーンの広がりは想定しづらい
②子ども・若者の利用増	広報・営業等の強化による利用者の増加が望まれる スポーツ種目が限られ、期間も限定のため、利用者数、利用頻度ともに、現状からの大幅な増加は見込みづらい (特に子どものアクセスが課題)
③市民(大人)の利用増	広報・営業等の強化による利用者の増加が望まれる スポーツ種目が限られ、期間も限定のため、利用者数、利用頻度ともに、現状からの大幅な増加は見込みづらい
④交流人口の増加	広報・営業等の強化による利用者の増加が望まれる スポーツ種目が限られ、交流人口増加は限定的、現状からの増加は見込みづらい
⑤施設競合・重複	市内・石見地方に同種施設はなく希少性は高い(県内・隣接県には存在)
⑥運営事業者の関心・意欲	事業性を不安視する事業者が多く、積極的な運営参加意向を有する事業者は不在

9. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察

●主要活用パターンの事業収支シミュレーション ケース①:スケート場(単体)

- **【全体】** 条例通りの開業期間（10月10日から翌年5月6日まで、営業日数：180日）に変更した場合を想定
- **【整備費・単年度支出】** 設備メーカー等への見積及び令和4年度サン・ビレッジ浜田アイススケート場実績を踏まえて試算
- **【収入】** 令和4年度サン・ビレッジ浜田アイススケート場実績をもとに、利用団体ヒアリング結果を踏まえて試算

【整備費概算シミュレーション】

費目	内容	概算金額（千円）
設備更新費	・冷凍機および氷上整備車の更新、付随する電気設備等の増設	191,000

【単年度支出概算シミュレーション】

費目	内容	概算金額（千円）
光熱水費	・年1回のリンク製氷・10/10~5/6の営業（約6か月間）＋基本料金12か月分、その他光熱水費（R4年度実績をもとに設定）	19,000
修繕費	・氷上整備車のメンテナンス費、その他修繕費（R4年度実績をもとに設定）	620
委託料	・設備管理・清掃・各種点検等（R4年度実績をもとに、営業日数の増加分を考慮して設定）	4,600
人件費	（R4年度実績をもとに設定）	4,300
その他支出	・旅費交通費・消耗品費・通信費等（R4年度実績をもとに、営業日数の増加分を考慮して設定）	1,500

【収入概算シミュレーション ※開業初年度～25年目まで一定の利用者数及び利用料収入を想定】

項目		想定年間実績	内容
想定利用者数合計（人）		9,200	・R4年度実績をもとに、設備更新、安定運営、開業期間延長等の影響を考慮して設定
施設利用料収入（千円）	現行料金	6,800	・現行と同額の単価をもとに、用途別の想定利用者数を踏まえて算定
	現行×1.2倍	8,160	・現行料金の1.2倍
その他利用料収入（千円）		2,600	・貸靴・道具類の利用料金収入のR4年度実績をもとに、想定利用者数を踏まえて算定

【ライフサイクルコスト（LCC）シミュレーション】

項目		整備年度	開業初年度	5年目	10年目	15年目	20年目	25年目	25年間合計
整備費・大規模改修費（千円）		△191,000	—	—	—	△191,000	—	—	△382,000
運営収支（千円）	現行料金	—	△20,620	△20,620	△20,620	△20,620	△20,620	△20,620	△515,500
	現行×1.2倍	—	△19,260	△19,260	△19,260	△19,260	△19,260	△19,260	△481,500
当該年度合計（千円）※現行料金の場合		△191,000	△20,620	△20,620	△20,620	△211,620	△20,620	△20,620	△897,500

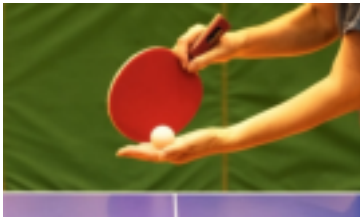
9. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察

●主要活用パターンの詳細整理(シナリオ) ケース②: 体育館(板張り)

ケース②: 体育館(板張り) 運営モデル(シナリオ)	
主な対応スポーツ種目等	屋内スポーツ(バレー・バスケ・バドミントン・インドアテニス・フットサル・卓球・パラスポーツ・アーバンスポーツ等) 通年営業・全天候対応
主な利用形態	一般利用、団体利用、大会利用(多種目)、合宿利用(多種目)、スポーツ以外の催事等利用 市内同種施設の利用形態・稼働状況、事業者の運営意向等を踏まえて、利用形態・稼働等を想定
再整備・更新等イメージ	既存のアイススケート場の不要設備を撤去して、板(フローリング)を敷設、板張りのほかにシート張りの整備例もある 空調、照明などの設備を設置、床(シート張り)の更新は不要
運営イメージ	指定管理(利用料金制) サン・ビレッジ浜田スポーツ広場と一体的に管理運営をおこなう包括指定管理 指定管理者による自主事業(各種目スクール、健康増進・運動実施率向上イベント、大会等誘致、合宿誘致など) 市内同種の施設使用料を参考に使用料を設定、受益者負担増(使用料の値上げ)も考えられる



春日井市・落合公園体育館 HP



※写真は全てイメージ、実際とは異なる

9. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察

●主要活用パターンの詳細整理(シナリオ) ケース②: 体育館(板張り)

- ケース②：体育館（板張り）の場合の主要な整理項目については以下のとおり。

ケース②: 体育館(板張り) 主な整理項目	
①利活用シーンの広がり	バレー・バスケ・バドミントン・インドアテニス・フットサル・卓球・パラスポーツ・アーバンスポーツ等のスポーツで、 通年を通して天候に左右されず利用が可能
②子ども・若者の利用増	バレー・バスケ・バドミントン・インドアテニス・フットサル・卓球、パラスポーツ・アーバンスポーツ等のスポーツで、 天候に左右されずスクールや大会・合宿等の開催等により大幅な利用増が見込める（特に子どものアクセスが課題）
③市民(大人)の利用増	バレー・バスケ・バドミントン・インドアテニス・フットサル・卓球、パラスポーツ・アーバンスポーツ等のスポーツで、 天候に左右されないスクールや大会・合宿等の開催等により大幅な利用増が見込める
④交流人口の増加	バレー・バスケ・バドミントン・インドアテニス・フットサル・卓球、パラスポーツ・アーバンスポーツ等のスポーツ活動、 大会や合宿などを通じた市外・県外からの新たな交流人口増(多年代)が期待される
⑤施設競合・重複	市内に同類施設あり
⑥運営事業者の関心・意欲	積極的な運営参加意向を有する事業者が存在

9. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察

●主要活用パターンの事業収支シミュレーション ケース②: 体育館(板張り)

- 【整備費・単年度支出】メーカー等への見積、令和4年度サン・ビレッジ浜田アイススケート場、その他市内類似施設実績を踏まえて試算
- 【収入】市内類似施設実績及び民間事業者ヒアリング結果を踏まえて試算

【整備費概算シミュレーション】

費目	内容	概算金額（千円）
施設改修費	・ 全面 体育館フローリング張	91,000
空調等設置費	・ 大容量スポットエアコン 付帯電気設備（キュービクル増設等）含む	66,000

【単年度支出概算シミュレーション】

費目	内容	概算金額（千円）
光熱水費	・ 電気料金（空調）、その他光熱水費（類似施設実績より）	4,600
修繕費	（サン・ビレッジ浜田アイススケート場実績R4実績より）	120
委託料	・ 設備管理、清掃、各種点検等（サン・ビレッジ浜田アイススケート場実績R4実績より）	1,500
人件費	（サン・ビレッジ浜田アイススケート場実績R4実績より）	4,300
その他支出	・ 旅費交通費、消耗品費、通信費等（サン・ビレッジ浜田アイススケート場、類似施設R4実績より）	1,000

【収入概算シミュレーション ※開業初年度～25年目まで一定の利用者数及び利用料収入を想定】

項目		想定年間実績	内容
想定利用者数合計（人）		36,600	・ 類似施設実績及び民間事業者ヒアリング結果を踏まえて、用途別の利用頻度・人数を設定
施設利用料収入（千円）	想定料金	5,400	・ 類似施設を参考に設定した単価をもとに、用途別の想定利用者数を踏まえて算定
	想定×1.2倍	6,480	・ 想定料金の1.2倍
その他利用料収入（千円）		2,900	・ 空調利用料金：類似施設を参考に設定した単価をもとに、年間利用時間の30%を空調利用すると仮定して試算

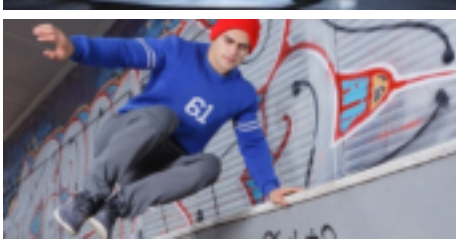
【ライフサイクルコスト（LCC）シミュレーション】

		整備年度	開業初年度	5年目	10年目	15年目	20年目	25年目	25年間合計
整備費・大規模改修費（千円）		△157,000	—	—	—	△66,000	—	—	△223,000
運営収支（千円）	想定料金	—	△3,220	△3,220	△3,220	△3,220	△3,220	△3,220	△80,500
	想定×1.2倍	—	△2,140	△2,140	△2,140	△2,140	△2,140	△2,140	△53,500
当該年度合計（千円）※想定料金の場合		△157,000	△3,220	△3,220	△3,220	△69,220	△3,220	△3,220	△303,500

9. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察

●主要活用パターンの詳細整理(シナリオ) ケース③:屋内人工芝施設(人工芝)

ケース③:屋内人工芝施設(人工芝) 運営モデル(シナリオ)	
主な対応スポーツ種目等	幅広い人工芝スポーツ(フットサル・サッカー・野球・インドアテニス・グラウンドゴルフ等) 通年・全天候対応
主な利用形態	一般利用、団体利用、大会利用(多種目)、合宿利用(多種目)、スポーツ以外の催事等利用 同種類似施設の利用形態・稼働状況を参考に、事業者の運営意向等を踏まえて、利用形態・稼働等を想定
再整備・更新等イメージ	既存のアイススケート場の不要設備を撤去して、人工芝(ショートパイル)を敷設、空調、照明などの設備を設置 概ね15年ごとに人工芝の張り替えが発生
運営イメージ	指定管理(利用料金制) サン・ビレッジ浜田スポーツ広場と一体的に管理運営をおこなう包括指定管理 指定管理者による自主事業(各種目スクール、健康増進・運動実施率向上イベント、大会等誘致、合宿誘致など) 同種類似施設の使用料を参考に使用料を設定、受益者負担増(使用料の新たな設定)も考えられる



9. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察

●主要活用パターンの詳細整理(シナリオ) ケース③:屋内人工芝施設(人工芝)

- ケース③：屋内人工芝施設（人工芝）の場合の主要な整理項目については以下のとおり。

ケース③:屋内人工芝施設(人工芝) 主な整理項目	
①利活用シーンの広がり	フットサル・サッカー・野球・インドアテニス・グラウンドゴルフ・パラスポーツ・アーバンスポーツ等のスポーツで、 通年を通して天候に左右されず利用が可能
②子ども・若者の利用増	フットサル・サッカー・野球・インドアテニス・グラウンドゴルフ、パラスポーツ・アーバンスポーツ等のスポーツで、 天候に左右されずスクールや大会・合宿等の開催等により大幅な利用増が見込める（特に子どものアクセスが課題）
③市民(大人)の利用増	フットサル・サッカー・野球・インドアテニス・グラウンドゴルフ、パラスポーツ・アーバンスポーツ等のスポーツで、 天候に左右されないスクールや大会・合宿等の開催等により大幅な利用増が見込める
④交流人口の増加	フットサル・サッカー・野球・インドアテニス・グラウンドゴルフ、パラスポーツ・アーバンスポーツ等のスポーツ活動、 大会や合宿などを通じた市外・県外からの新たな交流人口増(多年代)が期待される
⑤施設競合・重複	市内に屋内人工芝の公共施設はなく、独自性は高い
⑥運営事業者の関心・意欲	積極的な運営参加意向を有する事業者が存在

9. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察

●主要活用パターンの事業収支シミュレーション ケース③:屋内人工芝施設(人工芝)

- 【整備費・単年度支出】メーカー等への見積、令和4年度サン・ビレッジ浜田アイススケート場、その他市内類似施設実績を踏まえて試算
- 【収入】市内類似施設実績及び民間事業者ヒアリング結果を踏まえて試算

【整備費概算シミュレーション】

費目	内容	概算金額（千円）
施設改修費	・全面 ノンフィルタイプ人工芝張	77,000
空調等設置費	・大容量スポットエアコン 付帯電気設備（キュービクル増設等）含む	66,000

【単年度支出概算シミュレーション】

費目	内容	概算金額（千円）
光熱水費	・電気料金（空調）、その他光熱水費（類似施設実績より）	4,600
修繕費	（サン・ビレッジ浜田アイススケート場実績R4実績より）	120
委託料	・設備管理、清掃、各種点検等（サン・ビレッジ浜田アイススケート場実績R4実績より）	1,500
人件費	（サン・ビレッジ浜田アイススケート場実績R4実績より）	4,300
その他支出	・旅費交通費、消耗品費、通信費等（サン・ビレッジ浜田アイススケート場、類似施設R4実績より）	1,000

【収入概算シミュレーション ※開業初年度～25年目まで一定の利用者数及び利用料収入を想定】

項目		想定年間実績	内容
想定利用者数合計（人）		36,600	・類似施設実績及び民間事業者ヒアリング結果を踏まえて、用途別の利用頻度・人数を設定
施設利用料収入（千円）	想定料金	5,400	・類似施設を参考に設定した単価をもとに、用途別の想定利用者数を踏まえて算定
	想定×1.2倍	6,480	・想定料金の1.2倍
その他利用料収入（千円）		2,900	・空調利用料金：類似施設を参考に設定した単価をもとに、年間利用時間の30%を空調利用すると仮定して試算

【ライフサイクルコスト（LCC）シミュレーション】

		整備年度	開業初年度	5年目	10年目	15年目	20年目	25年目	25年間合計
整備費・大規模改修費（千円）		△143,000	—	—	—	△114,300	—	—	△257,300
運営収支（千円）	想定料金	—	△3,220	△3,220	△3,220	△3,220	△3,220	△3,220	△80,500
	想定×1.2倍	—	△2,140	△2,140	△2,140	△2,140	△2,140	△2,140	△53,500
当該年度合計（千円）※想定料金の場合		△143,000	△3,220	△3,220	△3,220	△69,220	△3,220	△3,220	△337,800

10. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察まとめ

●主要活用パターンの総合比較整(総括表)

● 主要活用パターンの総合比較の結果は以下のとおり。

比較の視点	アイススケート場(単体)	体育館(板張り)	屋内人工芝施設(人工芝)
①利活用シーンの 広がりがあるか	△ スポーツ種目が限られ、通年利用も非現実的で、現状以上の利用シーンの広がり は想定しづらい	◎ アリーナスポーツ種目は多く、通年を通して天候に左右されず様々な利用シーンが 考えられる	◎ 人工芝スポーツ種目は多く、通年を通して天候に左右されず様々な利用シーンが考 えられる
②子ども・若者の利 用増が見込めるか	○ スポーツ種目が限られ、期間も限定のため、利用者数、利用頻度ともに、現状からの大幅な増加は見込みづらい(アクセスが共通課題)	◎ 様々なスポーツ種目で天候に左右されないスクールや大会・合宿等の開催等により大幅な利用増が見込める(アクセスが共通課題)	◎ 様々なスポーツ種目で天候に左右されないスクールや大会・合宿等の開催等により大幅な利用増が見込める(アクセスが共通課題)
③市民(大人)の利 用増が見込めるか	△ スポーツ種目が限られ、期間も限定のため、利用者数、利用頻度ともに、現状からの大幅な増加は見込みづらい	◎ 様々なスポーツ種目で天候に左右されないスクールや大会・合宿等の開催等により大幅な利用増が見込める	◎ 様々なスポーツ種目で天候に左右されないスクールや大会・合宿等の開催等により大幅な利用増が見込める
④交流人口の増加 に寄与しうるか	△ スポーツ種目が限られ、交流人口増加は限定的、現状からの増加は見込みづらい	○ 施設特性を生かしたスポーツ種目による新たな交流人口増を期待	○ 施設特性を生かしたスポーツ種目による新たな交流人口増を期待
⑤施設競合・重複が ないか	◎ 施設の希少性は高い	△ 市内に同類施設あり	◎ 屋内人工芝の公共施設はない
⑥運営事業者の関 心・意欲があるか	△ 事業性に不安視、積極的な運営参加意向を有する事業者は不在	◎ 積極的な運営参加意向を有する事業者が存在	◎ 積極的に運営参加意向を有する事業者が存在
⑦整備費・維持管理 費の多寡	△ 25年のライフサイクルコスト約9.0億円	○ 25年のライフサイクルコスト約3.0億円	○ 25年のライフサイクルコスト約3.4億円

10. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察まとめ

●サン・ビレッジ浜田・アイススケート場の機能のあり方に関する考察まとめ(総論)

■ サン・ビレッジ浜田アイススケート場は、屋内人工芝施設として機能転用を図ることが望ましい

屋内人工芝施設と体育館施設の評価はほぼ同評価。事業化において民間活力がより発揮しやすい機能を選定することが肝要

1. 公共施設の役割・機能(より多くの市民の利用、より多くの受益実感の提供)の観点

- サン・ビレッジ浜田アイススケート場の利用者数は年々減少し、直近では約5,000人(営業日数120日換算で1日あたり約40人の利用)で、多い月は約1,500人(日換算約50人)、少ない月は約700人(日換算約26人)の利用にとどまっている。浜田市民のスケート場利用は、中高生・成人ともに、数年に1度の利用が最も多く、浜田市民の利用は非常に限られている状況である。
- 市外からの利用者が多く、若年層や子育て世代をはじめとする浜田市民のための施設として有効に機能しているとは言い難い。市内中高生は、「アイススケート場を残した方がよい」と思う割合が高いが、その反面、毎年利用している割合は低く(約2割)、利用が伴っていない実態がある。浜田市民成人は、「アイススケート場は他機能に転用した方がよい」と思う割合が高い。
- 公共施設として追求すべき役割・機能(=より多くの市民に利用され、より多くの受益実感を提供する)の観点から、市民の限定的な利用にとどまるアイススケート場として継続するよりも、一年を通してより多種目のスポーツが可能で、より多くの人に利用される可能性の高い機能に転用する方が望ましい。

2. 経済効果・市財政負荷・費用対効果の観点

- サン・ビレッジ浜田アイススケート場は、カーリング大会等の開催を含め、市外からの利用比率が高いが、市外利用者数、利用頻度、市内宿泊、域内消費額などは少なく、浜田市内に及ぼす経済効果は極めて小さい状況にある。機能転用により、浜田市の集客交流施設としての機能を高め、対応可能なスポーツ種目、利用の多角化を図り、市外利用者、市内宿泊、域内消費額の増加を促すことが期待される。
- 15年間でかかる総費用(整備費+光熱費)は、アイススケート場として改修・運営するよりも、屋内人工芝施設(体育館施設)として改修・運営する方が経済合理性が高い。年間利用者数も屋内人工芝施設(体育館施設)の方が多く見込まれ、利用者一人当たりにかかる費用・受益者負担額も安くなる。
- 経済効果・市財政負荷・費用対効果のいずれの観点からも合理性の高い、機能転用をおこなうことが望ましい。

10. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察まとめ

●サン・ビレッジ浜田・アイススケート場の機能のあり方に関する考察まとめ(総論)

3. 拠点性・目的性の観点

- サン・ビレッジ浜田アイススケート場は、開業以来、カーリングの公式大会、フィギュアスケートの練習場(公式大会は会場規定を満たしておらず不可)の拠点として、また、市民の家族・仲間内でのアイススケート(レクリエーション)の場として親しまれてきた。特に、**カーリング・フィギュアスケートの競技者・競技団体・愛好者にとって浜田市内の貴重な活動の場が失われることによる影響や喪失感などは推し量れるものではない**。限られた資源をより効果的・合理的に活用することが待ったなしの状況において機能転用という経営判断に行うにあたり、**既存利用者の県内・近隣県における活動継続・代替に対する(段階的・時限的な)フォロー・サポートなども検討されたい**。
- 機能転用により、アイススケートの拠点性・目的性に替わる(やはり機能転用して良かったと多くの市民に感じてもらえる)、**新たな拠点性・目的性を発揮していくことが求められる**。より多様なスポーツ活動やより広い利用形態の促進を通じて、**生涯スポーツの振興、健康づくりの推進、観光・交流の推進、人がつながる定住環境づくりの推進などにも寄与する拠点機能を発揮する必要がある**。
- 浜田市の商圏人口の少なさが課題となり、**レクリエーション・エンターテインメント性のあるアクティビティ(多様な活動)機能や、ニュースポーツ機能を常設することは事業性の観点から実現性は低い**。市民のスポーツ・アクティビティ(多様な活動)シーンを拡充する内発的なスポーツ振興の高まりを通じて、交流人口促進の求心力を高め、関連ビジネスを少しずつ広げていくシナリオが重要になる。

4. 施設経営の観点

- 施設の機能転用の効果を最大化するため、**民間事業者のノウハウ・創意工夫を活かした施設運営が行われることが望まれる**。施設の効率的な運営はもとより、**若者・子育て世代をはじめとする浜田市民により親しまれ、浜田市の生涯スポーツの振興、健康づくりの推進、観光・交流の推進、人がつながる定住環境づくりの推進などに寄与する自主事業を積極的に展開されることが期待される**。
- 機能転用の効果を最大化するためには、**市内関連施設と役割分担・連携をおこない、サン・ビレッジ浜田の施設利用の目的性を高め、ソフト面の充実も併せた拠点性を創造していくことが不可欠であり、サン・ビレッジ浜田スポーツ広場の利用との相乗効果も期待して、スポーツ広場と一体的な運営を担ってもらうことが期待される**。

10. サン・ビレッジ浜田アイスケート場の機能のあり方に関する考察まとめ

●サン・ビレッジ浜田・アイスケート場の機能のあり方に関する考察まとめ(総論)

機能転用の方向性(イメージ)

一年を通じて多様なスポーツ種目・レクリエーションなどに対応(全天候)するアクティブフィールド 「サン・ビレッジ浜田」

浜田市内の既存スポーツ活動のより付加価値の高い活動フィールドとして
市民の多様なコミュニティの遊び・交流のフィールドとして

指定管理者が提供するアーバンスポーツ等多様なスポーツの体験フィールドとして
市外のスポーツ団体等の合宿、合同練習、対外試合などのフィールドとして

市民のスポーツ活動環境の向上



- 全天候型・空間の広さを活かした付加価値の高い活動環境
- 多種目のスポーツのスクールなどの活動環境(子ども・若者のスポーツ実施率の向上)
- 地域プロスポーツの活動環境
- 高齢者にとって一年を通じて身体への負荷が少ないスポーツ・アクティビティ環境など

アーバンスポーツ等多様なスポーツの体験



- 管理運営者と競技団体等との企画・タイアップによるアーバンスポーツの体験プログラム
- 企業等協賛によるニュースポーツのプログラム、e-スポーツ・ドローンレースなどの大会の企画・運営
- 年齢・障害の有無に関わらず楽しめるユニバーサルスポーツの体験・スクール など

多様なコミュニティの活発化

- スポーツ経営人材の育成
- 小・中・高の大規模イベント利用
- 部活動間の交流・合同練習・試合・交流利用
- 子育て世代の運動・学び・交流イベント利用
- 高齢者のサークル、クラブ活動間の交流・合同練習・大会等利用
- 市内企業のクラブ活動・交流利用、健康経営やSDGs促進に関する利用など



人工芝施設の場合のイメージ (サンマリナーズの屋内運動場 HP)

サン・ビレッジ浜田の全体運営



市外からの利用・交流促進

- アーバンスポーツや多種目の屋内スポーツの大会誘致によるスポーツツーリズムの拡大
- 多種目・全年代のクラブ活動・部活動の合宿等の誘致によるスポーツツーリズムの拡大
- 市内観光拠点、市内の宿泊・飲食・物販事業者、交通事業者等と提携したスポーツツーリズム商品の企画・販売、経済効果の拡大

10. サン・ビレッジ浜田アイススケート場の機能のあり方に関する考察まとめ

●今後の事業展開に向けて

- サン・ビレッジ浜田の拠点性・求心力を高めるコンセプト・施設経営戦略の検討
 - ・ 関連施策との連動性を高め、スポーツを核にした浜田市の新たな都市経営像を牽引する拠点コンセプト
 - ・ ターゲットを明確にした中長期的なスポーツ振興・地域関係者の発展シナリオ
 - ・ 発展シナリオを計画的に具現化・実装するための施設経営戦略
- 民間事業者対話を通じた民間活力導入可能性検討、事業要件整理と要求水準の検討
 - ・ 事業効果の最大化と、トータルコストの最適化を実現するための民間活力の活用方策
民間資金・ノウハウを活用した整備運営手法、自主事業要件付き利用料金制指定管理、サン・ビレッジ浜田スポーツ広場との包括指定管理、サン・ビレッジ浜田と市内スポーツ施設の包括指定管理、施設運営権の設定など
 - ・ 事業の実行性・持続性を高めるための民間事業者対話、市の政策課題と連動した事業要件・要求水準
- 民間提案に基づく運営計画、モニタリングの仕組みの検討
 - ・ 市の政策課題と連動した運営計画
 - ・ ①若者・子育て世代をはじめとする、より多くの市民利用を促進し、市民受益を拡充すること、②サン・ビレッジ浜田全体での大会や合宿・研修などの主催・誘致等による市外からの来訪者を増加させること、などの要求水準・モニタリングの設定

●想定スケジュール※

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
整備関連	改修計画等	基本・実施設計発注	工事発注(入札) 施工	施工・工事完了	
事業者選定・ 運営等	民間事業者対話	指定管理方針決定	指定管理者公募準備	指定管理者公募・指定 開業準備	開業(指定管理) モニタリング
議会・財政関連	補正予算(改修設計)	当初予算(実施設計)	当初予算(工事費・債 務負担) 工事契約議決	指定管理者議決	当初予算 (指定管理料)

※ 上記のスケジュールは、従来型の整備・運営（指定管理者制度活用）方式で、最短での流れを想定した場合。整備・運営に民間活力を導入する場合は、スケジュールの見直しが発生。